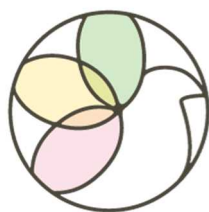


2023 年度 事業報告書



社会福祉法人
松江福祉公社

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

目次

【事業報告】

法人本部.....	1
特別養護老人ホーム長命園	7
小規模多機能型居宅介護事業所 長命園やくものお家.....	2 6
こばと保育園.....	4 2
放課後等デイサービスぽっぽ	5 6
こばと小規模保育園	6 6



【基本理念】

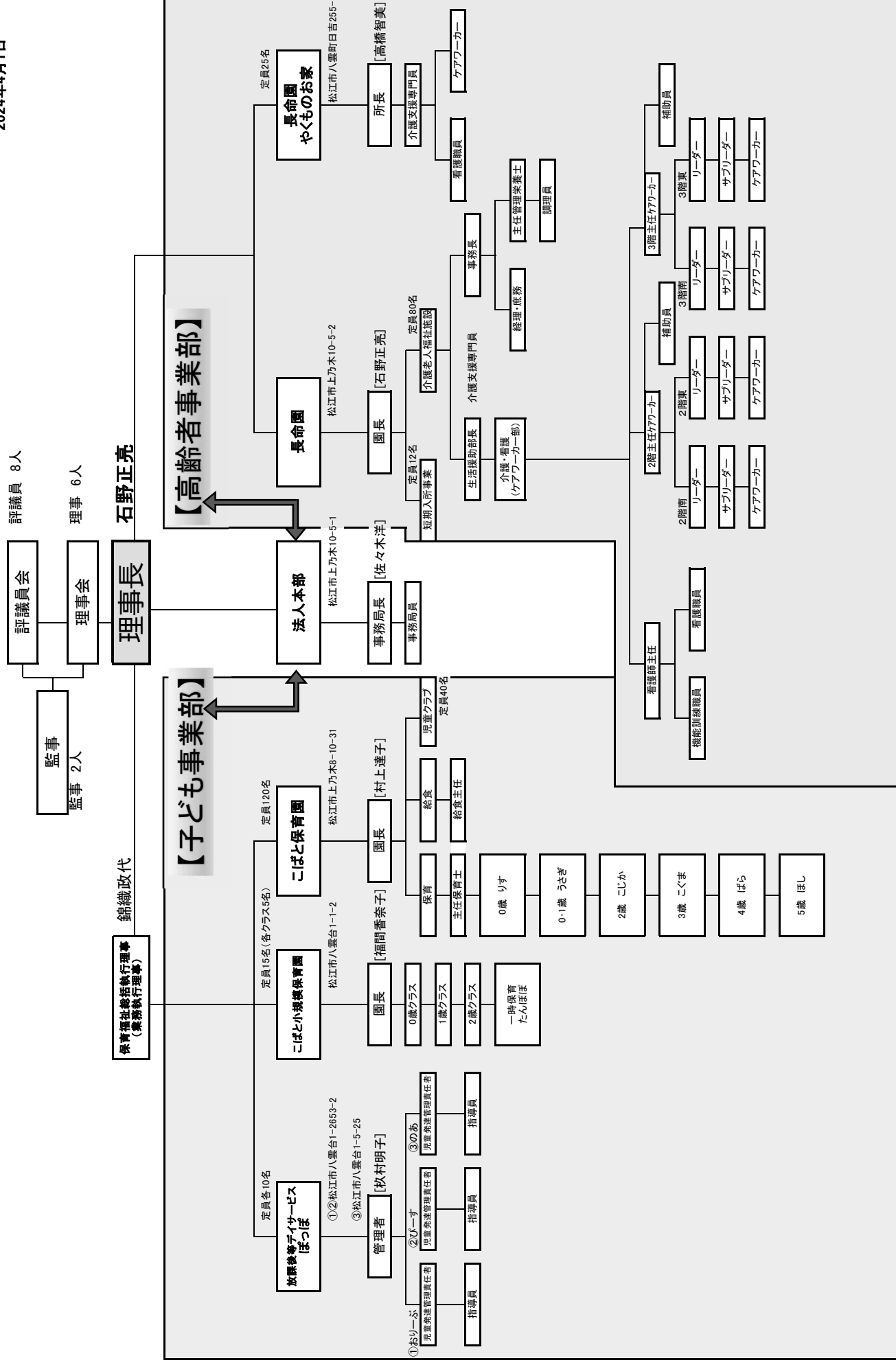
私たちは「博愛」「共生」「福祉科学」を実践し、子ども・高齢者・障がい者など、人と社会の多様性を承認し、生涯発達と人権尊重を基本に信頼される社会福祉法人をめざします。

【基本方針】

- I. 多様化する福祉ニーズに応じた法人運営をします。
- II. 広く地域社会と連携し、地域福祉に貢献する施設づくりをします。
- III. 「科学的知見」を基に、それぞれの施設を活用する皆さんの安全と幸せに貢献できる施設にします。
- IV. すべての法人職員は、日々、誠実な実践と学習・総括を行い、希望を拓く職場・組織づくりをします。

社会福祉法人松江福祉公社
法人組織図

2024年4月1日



法人本部

2023年度事業報告

令和5年度 事業報告

社会福祉法人松江福祉公社

1. 総括

令和5年度は新型コロナウイルスの影響が残るなか地域の社会活動が再開され始めた。保育、高齢者、障がい分野の各事業所ではそれぞれの実情に合わせて感染症対策と事業活動の両立を模索した1年であった。

松江市の人口推移を見ると、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年に向けて老年人口（65歳以上）と要介護認定者数は増加し生産年齢人口（15～64歳）と年少人口（0～14歳）は急速に減少していくと推計されている。高齢者部門では要介護認定者の増加が予想されているが有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅等の増加により自宅で生活する要介護者が減少していることが入所施設の待機者減少や居宅介護サービス、地域密着型介護サービスの運営を困難にしている。

一方で、法人経営は物価高騰の波が収まる心配がなく、大きな影響を受けた。大企業の賃上げが取り上げられる中、福祉職の賃金は依然として全産業平均から乖離し、働き手世代の減少も合わさって職員確保も困難な状況が続いており事業整理や利用定員を下げて運営する事業所もあると聞く。

令和5年度、当法人は各事業所の役職員に対して職場意識アンケートを実施しました。その結果、各事業所に課題が浮かび上がった。この課題を法人全体で職員一人一人の意識向上と職場環境の改善に取り組むことで利用する人や働く人にとって魅力ある居場所づくりを目指します。

2. 法人本部運営報告

令和5年度は理事・監事・評議員の同時改選となり、理事2名・監事1名・評議員2名が新たに就任され新たな役員体制となりました。理事長が交代し、前理事長の方針を引き継ぎながらも、次代の感性を取り入れた新たな法人改革に着手した年でもあった。

法人運営については、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組に努めた。経営組織のガバナンス強化については、法人本部を中心に、法人全体での内部統制機能の強化を進めるため7月から「法人本部会議」を設置し、法人の抱える課題に迅速且つ効果的に対応することとした。事業運営の透明性の向上、財務規律の強化については、安部税理士事務所の協力のもと各拠点事業所での適切な予算管理の推進、取引業者の契約内容見直しや価格設定の妥当性の検証、法令遵守を基にした規則・規程の内部規範の整備に努めた。

法人全体での事業活動では、サービス活動収益は前年比26,637,878円増の709,785,246円となり、減価償却費等を含めたサービス活動増減差額は、前年比6,446,490円増の26,939,279円となった。長命園拠点では期間前半は短期入所の稼働率低下による影響もあったが、後半は持ち直したことで補助金交付の影響などから増収増益となった。ぽっぽぽ拠点では稼働率の向上と加算取得の見直しにより増収増益となった。一方、やくも拠点においては収入微増となったものの支出

は人件費の上昇と物価高、設備更新などの影響により減益。こぼと及び小こぼとの2拠点は、特に0歳児の入所が年度当初から少ない状況が続きサービス活動収益、サービス活動増減差額ともに前年実績を下回り減収減益となった。

3. 法人理事、監事、評議員

(1) 役員、評議員（2024年4月1日現在）

役 職	定 数	氏 名
理 事	6	石野正亮（理事長）、錦織政代、安部且彦、大木理之、高橋智美、村上達子
監 事	2	五十嵐恵子、佐渡真理
評 議 員	8	安部紀正、吉儀和平、舟越美幸、荒木伸子、山崎芙美子、田部修二、富田恵子、小泉志乃婦

(2) 就任、退任役員

【退任】

役 職	氏 名
理 事	岩田熹昌、佐渡真理
監 事	美見昭光
評 議 員	高橋美夫、石橋俊夫

【就任】

役 職	氏 名
理 事	大木理之、村上達子
監 事	佐渡真理
評 議 員	富田恵子、小泉志乃婦

(3) 理事会開催状況

開催日	審議内容	審議結果
令和5年度第1回 令和5年5月25日	【報告事項】 理事長の職務執行状況の報告 【決議事項】 第1号議案 2022年度事業報告及び計算書類等の承認の件 第2号議案 規程改定の件 第3号議案 次期役員候補者及び組織体制の見直し 第4号議案 定時評議員会招集の件	可決 〃 〃 〃
令和5年度第2回 令和5年6月11日	【決議事項】 第1号議案 理事長及び業務執行理事の選定	可決
令和5年度第3回 令和5年9月21日	【報告事項】 理事長の職務執行状況の報告 【決議事項】 第1号議案 2023年度第1次補正予算（案） 第2号議案 こぼと一時預り事業移管承認の件 第3号議案 規程改定の件 第4号議案 最賃引上に伴うパート職員時給改定の件	可決 〃 〃 〃

令和5年度第4回 令和5年12月12日	【報告事項】 理事長の職務執行状況の報告 【決議事項】 第1号議案 2023年度第2次補正予算（案） 第2号議案 次年度幹部職員選任の件 第3号議案 規程改定、新設・廃止の件	可決 〃 〃
令和5年度書面決議 発出日：1月24日 決議日：1月26日	【決議事項】 第1号議案 こばと保育園（ぽっぽ舎）一時預り事業移管に伴う財産処分件	可決
令和5年度第5回 令和6年3月28日	【報告事項】 理事長の職務執行状況の報告 【決議事項】 第1号議案 役員等賠償責任保険契約の件 第2号議案 2024年度取引業者高額契約に係る承認の件 第3号議案 規程改定 第4号議案 2023年度第3次補正予算（案）承認の件 第5号議案 2024年度事業計画（案）及び当初予算（案）承認の件	可決 〃 〃 〃 〃 〃

（４）評議員会開催状況

開催日	審議内容	審議結果
令和5年度定時評議員会 令和5年6月11日	【報告事項】 ・2022年度事業報告の件 【決議事項】 第1号議案 2022年度計算書類及び財産目録等の承認の件 第2号議案 理事6名・監事2名選任の件 第3号議案 役員等報酬規程改定	可決 〃 〃

（５）法人監事監査結果

令和5年5月15日に当法人監事による令和4年度事業報告及び計算書類の監査を実施し、適正処理の報告を受けた。

（６）法人主要事業経過報告

4月10日	評議員選任・解任委員会
4月24日	2022 第4回安部税理士事務支援監査
5月6日	2022 安部税理士決算監査
5月15日	法人監事監査
5月25日	2023 第1回理事会
5月29日	県高齢者福祉課 やくも事業の陳情
6月11日	2023 定時評議員会・2023 第2回理事会
7月14日	2023 第1回法人本部会議（理事長、錦織、監事）

7月25日	保育所理事長会（錦織）
7月26日	2023 第1回安部税理士事務支援監査
8月1日	松江市社福法人連絡会総会
8月25日	第2回法人本部会議（理事長、錦織、監事）
9月21日	2023 第3回理事会
10月24日	2023 第2回安部税理士事務支援監査
10月26日	第3回法人本部会議（理、錦織、五十嵐、佐渡）
11月27日	施設長会議（全施設長）
11月28日	第4回法人本部会議（理、錦織、五十嵐、佐渡）
12月12日	2023 第4回理事会
1月22日	第5回法人本部会議（理、錦織、五十嵐、佐渡）
1月29日	2023 第3回安部税理士事務支援監査
2月26日	第6回法人本部会議（理、錦織、五十嵐、佐渡）
3月28日	2023 第5回理事会

（7）研修会等参加状況

月 日	研修名	用務地	参加者
2023/5/18	BCP 策定セミナー	WEB	佐々木
2023/7/6	社福指導監査説明会・研修会	合庁	石野、五十嵐、佐々木
2023/7/19	R5 社福経営者総会・研修会	ニューウェル出雲	佐々木
2023/7/25	保育所理事長会・松江市意見交換会	みずうみ	錦織
2023/8/1	令和5年度総会	エクセルホテル東急	石野、佐々木
2023/9/19	中小希望応援マネージャー	テルサ	佐々木
2023/9/28	最低賃金上げによる介護業界の制度改革セミナー	WEB	佐々木
2023/10/24	R5 福祉サービス苦情解決研修会	メッセ	石野
2023/10/18	第4回雇用管理責任者講習	テクノしまね	村上、丸谷、福岡
2023/10/31	第5回雇用管理責任者講習	メッセ	村上、丸谷、福岡
2023/11/16	会計面における指導監査で多く見られる指摘事項	WEB	佐々木
2023/12/21	R5 社福監事研修	WEB	佐渡
2024/2/6	R5 高齢者福祉経営セミナー	むらくも	石野、佐々木
2024/2/19	社会福祉法人役員研修会	WEB	錦織

4. 法人財務状況

①法人借入金償還状況（元金のみ 単位:千円）

借入先	当初借入額	償還済額	当期減少額	借入残高	備考
（独法）福祉医療機構	102,700	31,276	6,912	71,424	こばと保育園新園舎 建設借入金

②法人全体の純資産

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
895,377千円	895,184千円	904,086千円	920,425千円

③事業収入（サービス活動収益計）

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
683,734千円	663,002千円	683,147千円	709,785千円

事業所別	年度/千円	2020	2021	2022	2023
	長命園	374,889	364,481	358,537	379,470
	やくも	50,344	39,123	44,317	44,741
	こぼと	184,500	173,279	183,067	173,936
	ぽっぽ	41,284	43,916	53,342	72,358
	小こぼと	32,391	40,807	43,827	39,248

④経常増減差額率（経常増減差額÷サービス活動収益計）

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
7.6%	2.8%	4.2%	4.2%

法人の収益性を表す基本的な指標。同規模法人の平均的数値は約2.5%程度。

事業所	年度/%	2020	2021	2022	2023
	長命園	8.3	6.0	2.9	4.9
	やくも	-2.7	-22.3	-1.6	-9.5
	こぼと	8.0	4.9	9.6	1.2
	ぽっぽ	8.5	-0.6	7.4	12.8
	小こぼと	13.5	26.8	28.7	15.3

⑤人件費比率（人件費÷サービス活動収益計）

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
70.4%	74.7%	74.8%	74.6%

本指標の値が収益性に大きく影響します。安定的経営のためには固定費に関する比率である本指標の値を適宜分析する必要がある。

事業所別	(%)	2020	2021	2022	2023
	長命園	67.8	70.0	73.6	71.1
	やくも	80.1	96.6	80.6	87.2
	こぼと	71.4	74.5	71.3	78.2
	ぽっぽ	75.8	81.4	78.1	75.7
	小こぼと	71.5	61.8	63.3	74.9

⑥事業費比率（事業費÷サービス活動収益計）

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
13.2%	13.4%	13.7%	13.3%

事業費は、給食や介護用品など、利用者へのサービス提供に直接要する経費を表す変動費。

事業所	(%)	2020	2021	2022	2023
	長命園	15.5	16.5	18.1	17.0
	やくも	14.2	16.4	14.2	15.5

	こばと	9.8	9.2	8.6	9.4
	ぽっぽ	9.1	9.0	8.5	6.4
	小こばと	9.6	4.8	4.3	5.1

⑦事務費比率（事務費÷サービス活動収益計）

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
6.0%	6.1%	5.4%	5.3%

事務費は、修繕費、業務委託費、賃借料など、施設運営に要する一般管理費的な経費（人件費を除く。）を表す。

	(%)	2020	2021	2022	2023
事業所別	長命園	6.1	5.2	4.5	5.2
	やくも	4.0	4.3	3.6	3.8
	こばと	6.3	6.2	5.7	6.1
	ぽっぽ	5.4	9.0	5.8	4.0
	小こばと	5.1	6.4	4.5	4.4

⑧流動比率（流動資産÷流動負債）

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
550.4%	576.0%	550.5%	475.0%

本指標は、短期的な支払能力を判定する観点から、一般的に本指標の値が200%以上であることが望ましいと考えられる。

	(%)	2020	2021	2022	2023
事業所別	長命園	786.4	896.6	909.5	743.6
	やくも	1430.2	362.0	1782.6	574.4
	こばと	185.9	214.9	232.1	166.8
	ぽっぽ	211.3	137.1	88.1	126.2
	小こばと	427.4	1072.0	1114.6	793.2

⑨純資産比率（純資産÷総資産）

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
84.6%	85.5%	86.4%	86.6%

本指標の値が高いほど負債の支払負担が小さく、長期持続性が高いことを意味する。同規模法人の平均的な数値は約70%程度。

	(%)	2020	2021	2022	2023
事業所別	長命園	94.9	95.1	95.1	93.8
	やくも	99.0	94.9	99.2	97.4
	こばと	73.0	74.6	76.4	76.7
	ぽっぽ	-2.1	-20.0	-2.1	34.3
	小こばと	48.6	91.9	95.3	95.2

特別養護老人ホーム長命園

2023年度事業報告

2023（R5）年度 特別養護老人ホーム長命園 事業報告

長命園基本理念

「豊かな生活援助」

どのような疾病、障害があっても発達の可能性がある。その可能性を引き出し援助するという基本理念に基づき、原点に立ち返り利用者一人ひとりの権利擁護者としての自覚を持って援助します。

はじめに

令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類相当となり、高齢者施設内で陽性者が発生した場合の行政、保健所からのサポートは徐々に縮小されています。しかし、施設内の対応に大きな変更はなく緊張は変わらず続いています。令和5年度は計1回、1月にクラスターが発生しました。クラスターには至らないまでも職員が陽性となったことにより園内で感染拡大防止のためゾーニングを行う事態が年間を通して発生しました。感染防護具等の購入管理、eラーニングによる研修の充実、関係団体とのWEB交流等、コロナ禍以降の取り組みで習熟が進んでいる一方で、外出や面会の基準化や行事の縮小、職員の就業制限などにより、施設外との交流や関係が希薄になり、以前の水準まで戻すことに苦慮しています。感染対策をどこまで緩和できるか、施設内のルールや運営方針を見直す時期として施設全体で議論を重ねてまいります。

2023（R5）年度の重点項目

- 新型コロナウイルス等の感染症の予防や蔓延防止の対策を講じ、事業の継続性の確立と利用者の健やかな生活を支援します。BCP（事業継続計画）の策定と委員会による随時の更新を実施します。
 - ・非常災害時、新型コロナ等感染症に対応したBCP（事業継続計画）を策定しました。計画に完成終了ではなく常にアップデートが必要です。委員会活動により課題の抽出、計画の見直しや訓練の実施を行いました。
- 利用者の尊厳を第一として身体的拘束等の廃止、高齢者虐待防止に係る取り組みを実施します。
- 事故防止の研修と日々の業務の中で危険予測を行います。事故の再発防止に向け実効性のある手段を講じます。
- 施設内研修の充実と年間計画を策定。業務としてWEB研修や施設外研修への派遣を行います。研修参加者の報告会実施と現場業務へのアウトプットを施設全体でフォローします。

- ・前年度から導入した e-ラーニング研修を全職員同水準の内容で実施し受講しました。各委員会活動の実施と結果の周知、職員の意見集約に努めました。
- ・21 老福連の研究交流集会 IN 福島に WEB で参加し事例発表を行いました。年度当初から報告者、アドバイザー、責任者を設定し発表内容について検討を重ねました。

○速やかな入所案内と、一つひとつのケアを見直し利用者の健康管理により特養稼働率 97%、短期入所稼働率 75%以上を達成します。

○老朽化した施設の立て替えについて中長期的な計画を策定します。建て替えを前提とした収支バランスの見直しを行います。

- ・令和 5 年度特養稼働率 93. 79% 短期入所稼働率 55. 02%
- ・特養退所者や入院者が重なったことで目標値には届きませんでした。
- ・前年度のクラスター対応により個室の利用制限が発生したため短期入所利用者のキャンセルが多数発生した。空床を年度当初より回復できず稼働率が伸び悩みました。

その他詳細については、各部署の報告に委ねます。

1. ケアワーカー
2. 介護支援専門員
3. 生活相談員
4. 医務室
5. 給食室
6. 事務部
7. 短期入所事業

1. ケアワーカー部門

生活面について

・令和 5 年度はコロナウイルスが 5 類に以降し、行事の開催や家族と玄関で面会できることなど緩和された部分もあれば、職員本人や家族にコロナウイルス感染者が出た場合には隔離対応を行うなど、長命園内での感染拡大防止のため緩和できない部分もあり、利用者の心身への負担は変わらず大きい一年となった。職員や家族がコロナウイルスに感染したことで隔離生活になり、入浴の中止、面会の制限をすることになり、長期化すると ADL の低下や皮膚トラブル、すぐに対応できないことにより転倒事故につながることもあった。利用者への感染もあったが、陽性者の隔離を速やかに行い、感染の拡大を防ぐことができた。

行事については、職員と利用者のみで行うものについては、以前のように集まって行うことができ、忘年会や新年会など企画することができた。コロナウイルスによる隔離が行われている時には、中止や延期をせざる終えない状況もあった。外出については、コロナウイルスへの懸念が変わらずあり、企画することができなかった。

今後の課題としては、野外の散歩や人混みをさけるなどしての外出や利用者の集まれる行事を計画し、コロナウイルスで長く閉鎖的であった利用者の生活に楽しみを提供していけるよう他部署とも協力しながら企画していきたい。

ケアプランの取り組み

- ・利用者一人ひとりの生活の質向上に向けてケアプランに基づく支援を心がけた。各職種と連携して対応することができた。

人権擁護の取り組み

- ・身体拘束をせざるを得ない事例が一件あったが、身体拘束廃止委員会にて話し合い、ワーカー、医療と連携し身体拘束廃止となった。身体拘束廃止、高齢者虐待防止についてはeラーニングを活用して身体拘束廃止、高齢者虐待防止の意識と取り組みを学習した。今後もeラーニングとワーカー会議を通じて意識向上をしていく。

リスクマネジメントについて

- ・各種マニュアルに沿って対応することを心がけた。コロナウイルス感染症予防に関するマニュアルについては、改善点を都度見直し更新をしている。すぐに対策できるよう園としての対策、対応について全職員に周知し理解して行動できるようにしている。
- ・事故報告書については、三つの事故要因の視点から、グループ内で再発防止策を考え実施している。決定した再発防止策については、グループ会議にて職員に周知して情報共有、意思統一している。
- ・転倒事故が多くあったため、職員同士声を掛け合い、見守りできる体制を構築し転倒事故を未然に防げるようにしている。

居室担当制の充実

- ・利用者の代弁者としての役割を果たし、積極的にチーム内で発信して欲しい。また個々の利用者のニーズに応え、生活の質の向上を目指していきたい。

家族との連携

- ・コロナウイルスの流行のため、面会が制限され利用者家族との関わりが少ない状況であり、家族との連携を図ることが難しかった。日々の様子をフロアからこんにちとは誕生日カードにて報告し、連絡の必要な時や家族からの連絡があった際は、近状報告に努めていきたい。

終末ケアについての取り組み

- ・最期まで本人の思いをくみ取り、尊重した日々の生活を継続することが大切。その際、担当グループ、医療と相談しながら長命園看取りガイドラインに沿ってよりよいケアを目指した。

接遇について

- ・介護職員接遇マニュアルに沿った対応を行った。eラーニング研修やワーカー会議で周知を行い、受容、傾聴、共感を心にとめ、ケアを行うよう心掛けた。

職員の健康管理

- ・体調不良時には、すぐに相談してもらうことで、検査や受診などの対応を行っていたが、コロナウイルスの利用者への感染を防ぐことは出来なかった。インフルエンザ、感染性胃腸炎に関しても流行が続き、職員本人や家族が罹患することはあったが、利用者へ感

染することはなかった。

職員の育成について

- ・コロナウイルスの影響で、外部での研修機会がなく、オンラインでの研修参加となった。ワーカー会議は昨年に比べ開催することが増えた。ワーカー同士の認識の統一やマニュアルに沿った対応を改めて確認することが出来た。

2. 介護支援専門員

＜ケアプランについて＞

- ・年4回の見直し、介護保険更新後アセスメント、状態変化の激しい利用者の状況や体調に応じた（退院時等）ケアプラン作成とした。
- ・看取りのケアプランについてはその人らしいプラン作成に苦慮し、よりその人の終末期に寄り添えるプラン内容の立案できるよう情報収集が必要であると感じた。
- ・家族説明・同意については、郵送でお願いした。

施設内で解決せず、家族・地域を含めたケアを提供するようプランニングしたが、コロナ禍においてボランティアの受け入れや直接の家族面会ができないため実施できなかった。書面または電話で家族の意向を聞き出し、その人らしい生活に近づけるように状態の維持・向上に努め、「利用者主体、自立支援、家族支援、専門職の連携」を忘れず、策定した。

＜家族会について＞

- ・6月「介護サービスに関するアンケート」を実施。
意見や要望を基に利用者の日常生活や園全体の資質向上に取り組んだ。
- ・メール登録の実施。最新情報をメール送信にて報告した。

3. 生活相談員

＜適正なベッド管理・入退所管理＞

- ・「長命園入所基準」に基づいて、入・退所検討委員会を開催、公平性・透明性・緊急性を図るため、入居評価基準に基づき判定し21人の新入所者を迎えた。3月末現在平均介護度は4.17、介護度ⅣとⅤは全体の約9割を占めている。
- ・今年度の入院については、平均入院者数は4名だったが、体調不良入院にて急性期治療終了後、退院とならず転院後退所となる方が特に7、9月と多く、その際の新規受入に時間を要してしまった。今後も早めに病院や家族に連絡し情報収集に努め、退所後の空所期間を最小限に心掛けたい。新入所受入については待機者減少状況続いており、急性期病院に連絡依頼し待機者確保に努めた。昨年に比べ745人（延べ人数）増となった。
- ・退園総数は23人。

＜苦情相談＞

- ・4月5日第三者委員報告は書面報告。

〈総評〉

- ・大きな事故もなく安定した運営がなされている。

利用者の方が安心して生活するために、当たり前のことだが介助中の私語は慎む、プライバシー等しっかり守ることが大事です。

- ・時々、3ヶ月に一回とか苦情のはけ口として機会を設ける等、積極的に聞く試みがあるのではないのでしょうか？ 家族アンケートの実施内容を報告した。

＜身体拘束について＞

- ・今年度実施者は1名。

身体拘束廃止委員会～毎月実施、廃止に向け取り組みを行い廃止とした。

次年度も、安易に適応することなく、利用者の権利とサービスの質の向上を目指すと共に、ご家族にも、行動制限しないケアの意識啓発と理解を求めるよう働き掛け、身体拘束を防ぐための取り組みを行う。

＜リスク管理＞

- ・本年度、ヒヤリハット事故106件、事故報告155件、松江市事故報告20件

同一利用者の転倒事故や、同じ原因での皮膚剥離などがあった。再発防止対策による同様の事故を防ぐことができなかったケースもあり、より介助方法、見守りの体制の周知徹底が必要を感じた。

今後も事故防止の研修と日々の業務の中で危険予測を行い、事故の再発防止に向け事故報告書をもとにした事故の原因分析を具体的な事例をもとに行っていく。

＜看取りについて＞

- ・今年度、6人の方の看取り介護を行った。面会制限中だったが、家族の希望を聞き後悔の無いよう配慮した。本人らしさを尊重した日々の生活を継続し、最期まで本人と家族の望みをかなえながら、安らかな最期を迎えることができるように、各部署との連携等行った。また家族の不安軽減に努めるよう心掛けた。

- ・看取り介護終了後カンファレンス実施。

- ・年1回学習会（eラーニング研修）

今後も人生最期の貴重な時間に関わることが出来る私たちの仕事を誇りに持ち務めたいと思う。

＜その他＞

- ・3年間のコロナ禍で閉鎖的な生活を過ごしてきた。喜びや生きがいを作ることが我々の努めだと思うので、楽しみのある生活を提供するために、各部署の協力を得て企画していきたいと思う。利用者のいちばん身近な権利擁護者であり代弁者であることを忘れず、利用者の日常生活を守るため真摯に向き合い利用者及び家族と施設間の連絡調整や、外部の

諸機関との連絡調整、チームアプローチの連携に努め、利用者個々の状態やニーズに沿ったケアを提供していきたい。

- ・各種更新は期日通り書類を提出した。

4. 医務室事業報告

<健康管理について>

- ・利用者の状態観察と必要時、バイタル測定を行った。状態変化を嘱託医に報告し内服処方や病院受診など適切な対応ができた。早めに利用者の状態変化に気づけるよう医務室内での情報共有を行って行く。
- ・尿路感染症に対して早めの内服で対応してきたが状態の急激な悪化により病院受診となり入院に至るケースが依然として多くあった。同じ方が罹患することが多いため、再発予防に水分摂取量、排泄環境の見直しを行い、対策の継続を今後も行っていく。

<感染症について>

- ・引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を中心に行ったが園内でもクラスターが発生した。適切な感染対応の結果、感染拡大することなく比較的、軽症にて終息することができた。
- ・職員が感染対策物品の準備、ゾーニング、ガウンテクニックなど迅速かつ適切にできるようになった。今後も継続し、新人職員にも周知、徹底していく。

<褥瘡について>

- ・コロナ対応後に褥瘡の発生が多くあった。早期に医師に報告し軟膏等の処方をしてもらい適切な処置を行うことができた。また、ケアワーカー部門と連携し排泄介助、陰部洗浄の回数を増やしてもらえ、早期に治癒することができた。今後も褥瘡予防を継続していく。

<看取りについて>

- ・今年度も園で最期を希望された方の看取りを行った。本人の意向を聞くことが難しいことが多かったため、家族の意向を聞き、多職種と連携をとりながら看取りを行うことができた。今後も、状態変化を見逃さないよう多職種と連携を図りたい。
- ・看取りとなるタイミングが難しいため、利用者の状態に変化があった場合には、多職種と連携し、情報収集を行う。医師、相談員と連携し、家族の意向が反映されるよう対応していく。

<業務について>

- ・昨年度より薬箱を変更したことにより配薬準備のミスは軽減してきた。今後も継

続けていく。

- ・今年度もコストの削減に努めた。今後も必要物品を都度検討しコストの削減を行う。

<リハビリテーション>

- ・他部署との情報共有・連携

毎日の申し送り、月1回の各グループ会議へ参加し情報共有・連携に努めた。

- ・個別リハビリ

昨年度同様、感染症対策により実施できないことがあり、長期臥床による筋力低下、拘縮進行したケースが多く発生した。そのため、個別リハビリ計画を見直し、個々の心身機能に応じた計画を立案し実行した。

- ・食支援

日々食事介助に入ることで摂食嚥下機能、姿勢評価を行い、食支援に努めた。

- ・褥瘡予防

毎月褥瘡対策委員会に参加し、多職種と連携し褥瘡の発生予防と悪化防止に努めた。

<褥瘡対策委員会>

- ・褥瘡0が達成できた月があったが、今後は継続できるようにしたい。
- ・感染症対策でフローア隔離になったことで清潔保持が出来ず、皮膚が脆弱し褥瘡が発生したケースがあり、今後の課題である。
- ・新しい取り組みとして毎月のグループ会議に褥瘡対策委員会の報告を取り上げることで、個々に皮膚状態を観察し早く情報を得ることができ、褥瘡の改善に繋がった。
- ・ファシリテーターを毎回変えることで委員会を活性化させることが出来た。

<安全委員会>

喀痰吸引の利用者が増えたが、必要に応じて実施することができた。胃瘻注入の実施状況は、順調に経過した。今後も対象者の方の状態に注意していきたい。

5. 給食室

【具体的な取り組みについての報告】

- 嗜好調査や行事食を通じて利用者とコミュニケーションをとることができました。また、季節の野菜の下処理（茹の皮むきやグリンピースの鞘むき）を一緒に行うことができました。
- 献立作成にあたっては、季節の食材や郷土料理を取り入れることで施設生活においても四季を感じていただくことができました。

- 栄養マネジメント業務を多職種連携で行い、ひとり一人の栄養状態に合わせ個別対応を行い低栄養の改善に努めました。
また、サービス担当者会議には管理栄養士だけではなく調理師も参加し利用者のニーズを把握することにより、調理業務に活かすことができました（代替え食の提供など）。
- 療養食を提供し、病状の悪化を予防することができました。
- 看取り対象の利用者にはご家族の意向も反映し本人の好まれるもの、食べやすいものを提供することができました。
- 今年度はおやつバイキングを 4 回開催することができました。ホールにておやつ作りを実演することにより利用者に喜んでもらえました。
- コロナ禍により外出が難しい利用者に喜んでもらえるようにと給食室、介護部門合同で夏祭りを開催しました。夏祭りではかき氷、アイスクリーム屋さんや魚釣りゲームなど祭りの雰囲気を楽しんでいただくことができました。昼食にはランチバイキングを開催し皆で賑やかに食事を楽しむことができました。
また、12 月にはクリスマスメニューのランチバイキングを開催しました。
- 開園記念日、敬老祝賀会では大規模な式典は中止となりましたが、お祝い膳を提供し喜んでいただけました。
- 季節毎のイベント（ちまき作り、さんま焼き、焼き芋、餅つき、そば打ちなど）は介護部門と協力し開催することができました。
- お誕生日を迎えられる利用者には「お楽しみ昼食」としてお祝い膳を提供することができました。
- 新型コロナウイルス感染症対策、災害時対策として、非常用食品、使い捨て食器等の購入を行い感染者が確認された場合にも速やかに食事提供ができるように準備を行いました。実際にコロナウイルス感染予防対応で使い捨て食器を使用し食事提供を行う場面が今年度もありました。
- ショートステイ、やくものお家の利用者も重度化が進んでおり、個別対応の件数が多くなっています。担当者と連携し情報共有を行い利用者の状態に合わせた食事を提供することができました。
- 給食委員会を毎月開催することができず、嚥下調整食の学習会を行うことができませんでした。次年度の取り組みとして学習会を計画します。
- 物価高の影響を受け、生鮮食品や栄養補助食品の価格も高騰しました。一部生鮮食品は冷凍食品へ切り替えを行いました。また、栄養補助食品は同等の栄養成分で安価な物に切り替えをしました。今後も物価高の影響は続くと考えられます。納品業者の見直し等も視野に入れ計画的な仕入れを行います。

6. 事務部

今年度は年度当初に入院者数の増加はありましたが、その後の増加を抑えられたことで

延べ利用者数は前年比+745 人、入院者数-23 人、利用率は 93.79%と前年よりも良い結果となりましたが 5 年前の水準には至りませんでした。

依然と物価高の状況は続いており、光熱費、食品、物品等は高い水準で推移したため、これらの経費の削減はできませんでした。今後も高い水準を維持していく可能性が高いため、業者の見直しも行いながらできるだけ維持に努めていきます。

前年度からオンライン研修を行い、受講状況を確認して対応しています。操作や機器で操作が異なる場合があります。これまで研修に参加できなかった際の報告、伝達はなくなり、職員一人一人が研修を受けることができるようになりました。受講し実践にもつながっています。

人材は、産休・育休といった期間の限られた職員確保は難しく、新卒者の採用も至りませんでした。中途職員の採用はできましたが、今後も人材確保は難しく引き続き取り組んでいきます。

受診件数の増加で業務が滞ることもありもあり、法人本部、他部署の協力を得ながら行いました。本部とも連携して研修活動に取り組み、諸制度の改正に対応できるように取り組んでいきます。

- ① 保険制度による毎月の保険請求事務は、部門担当者を支援しながら期日通りに行いました。
- ② ホームページは新しくなりました。
- ③ メール連絡網を活用して利用者・職員に発信をしました。
- ④ 広報紙「やすら樹」を発行し、家族・施設関係者に郵送しました。
- ⑤ 水道光熱関係・燃料・マットといった消耗品の実績は別紙の通りです。ガス・電気共に基本料は高い水準で推移しており、物品等も同様です。
- ⑥ 病院受診・入退院の運転援助といった他部署からの要請に速やかに取り組んできました。
- ⑦ 預かり金管理事務は別紙の通りです。
- ⑧ 営繕・修理・物品状況は別紙の通りです。
- ⑨ e-ラーニングによる研修を行いました。
- ⑩ 今年度の避難訓練、防火訓練の取り組みは別紙の通りです。

7. 短期入所事業

<実績内容>

- | | |
|------------|--------------------|
| ① 月平均延べ人数 | 200.8人（対前年比：8.5人↑） |
| ② 平均介護度 | 2.80（前年度平均：2.51） |
| ③ 1日平均利用者数 | 6.6人（対前年比：0.3人↑） |

④ 稼働率 55.0% (対前年比: 2.3ポイント↑)

⑤ 介護度別割合 (単位: %)

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0	0	14.9	18.8	48.5	7.3	10.5

<事故報告書> (ヒヤリハットを含む)

計26件 (転倒19件、服薬関連3件、負傷3件、危険行為1件)

□利用者数について

今年度も新型コロナウイルス感染の拡大による施設利用者、短期入所利用者、職員が感染者となるケースが断続的に発生した。その都度施設内で感染拡大の予防体制のため短期入所利用者の利用フロア及び居室の変更、短期入所の利用開始、継続利用の中止を案内せざるを得ない状況も発生した。

新規利用者については利用契約に至るも、園内でコロナウイルスの感染が発生し、感染予防ため利用キャンセルを案内することになり、結果的にその後の利用につながらなかった等、新規利用者の獲得は新型コロナウイルス感染が影響を及ぼす状況により困難な状況が変わらず続いた。

新型コロナウイルス感染以外にも継続利用者で高齢化、要介護の重度化により、短期入所利用期間中に体調の急変で入院となり、以降の短期入所利用の中止となることが引き続き発生、増加してきている。

土日、祝日の利用開始及び終了については、一昨年度から引き続き受入時の職員の感染対策体制の課題もあり、土日、祝日の短期入所受入、終了の対応は中止している。

そのため土日のみの利用といったニーズに対応が困難であり、利用機会の減少によりある程度の影響が出ていると考えられる。

□利用者対応ケアについて

事故、ヒヤリハットの報告では、利用者の自立行動中の転倒やベッドからの転落などが多かった。そのうち骨折、負傷などにより受診を行ったケースは2件あり、松江市に事故報告を行った。

転倒については特定の利用者に発生が集中しており、自立支援と安全確保のバランスを今後も慎重に考慮していく必要がある。

令和５年度 病院受診関係の報告

【総括】

令和5年度の病院受診、退院、X線撮影（BX-P）等の延べ人数は 477 人でした。

令和4年度 422人 に対し、55人増 となりました。

令和５年度 受診・退院等件数一覧

単位:(人)

月	受 診	退 院	BX-P	その他	計
4月	34	1	6	0	41
5月	32	7	10	0	49
6月	34	5	8	0	47
7月	43	4	9	1	57
8月	26	6	4	1	37
9月	20	4	6	0	30
10月	25	6	8	0	39
11月	17	4	2	1	24
12月	31	7	0	0	38
R6.1月	30	9	0	0	39
2月	31	4	0	1	36
3月	33	7	0	0	40
	356	64	53	4	477

受 診・・・（検査のみ、胃ろう交換、入院等含む）

そ の 他・・・（送迎のみ、結果のみ等）

477

令和5年度預り金管理報告

1. 預り金等（預金通帳・印鑑）管理については「長命園預り金規定」に基づいて管理を行っています。

入出金の状況を3ヵ月に一度、身元引受人（連帯保証人）に確認書を送付し、署名捺印の上返送いただきます。令和5年度確認書平均返送率は95.9%となり前年比1.5%減となりました。

島根銀行通帳を当園に預り依頼される利用者（ご家族）は、今年度末時点で利用者77名中、島銀通帳預り31件、ゆうちょ銀行34件、その他5件となっております。利用者またはご家族名義で既に所有されているゆうちょ銀行口座からの引落払いを選択される方が増加しています。（ゆうちょ銀行通帳は基本的にはご家族等身元引受人様による所有管理であるため、当園でお預りすることはありません。）引き続き、次年度においても、法令等を順守し利用者・ご家族様へ透明性のある適正な通帳管理を心がけ、当園への信用の維持向上を図ります。

	発送年月日	発送数	回収数	回収率
1回目	R5年 4月 8日	31人	31人	100.0%
2回目	R5年 9月 8日	31人	31人	100.0%
3回目	R5年10月10日	29人	28人	96.6%
4回目	R6年 1月10日	31人	27人	87.1%

平均返送率：95.9%

2. 現金の取り扱いは、原則として本人管理です。

払い出し依頼を受けたときは、「現金払い出し依頼書」を交付。

現金を引出して本人に受け渡したとき「預金受領書」を、複数職員にて確認。

本人・家族等から預り金にかかる現金の授受をうけた際には「預け入れ依頼書」を交付。

3. 預かった通帳から毎月の介護保険利用料・介護保険外（事務管理サービス・日用品・

医療費等の立替金・長命会会費）を毎月20日（銀行休業日の場合は翌営業日）に自動引落で行います。

（身元引受人様には毎月10日頃請求書発送）

4. 立替金の明細については、立替金個人明細を作成し請求書と同時に身元引受人様等に送付しご確認いただいております。

令和 5 年度 物品管理・営繕事業報告

【総 括】

今年度は、個浴リフトの購入、ホールの LED 化、厨房冷凍冷蔵庫の購入、ガス給湯器の購入、建物点検指摘箇所の修繕、特浴担架の修理等を行いました。また、ホールの壁紙とワーカー室・医務室の畳を新調しました。

コロナウィルス感染症対策について、備蓄品として厚生労働省からゴム手袋やガウン等の配布がありました。松江市新型コロナウイルス感染症検査キット配布事業からは職員の抗原検査キットの配布があり、数ヶ月にわたり定期的に検査することで集団感染を未然に防ぐことが出来ました。第 5 類に分類されたことで今後は国や県からの補助や支給がないため、職員の抗原検査キットを含む全ての物品に関して、園での購入が必要となります。

物品購入について、引き続きその必要性を精査し、コストを削減できる可能性を探り実施して行きます。使用年数が経過するものも多く、更新・修理についても精査して迅速に実施していきます。

1. 器具及び備品、車輛等

今年度は松江市社会福祉法人等エネルギーコスト削減対策緊急支援事業費補助金の交付をうけ、2 階・3 階ホール蛍光灯を LED に切替えました。同じ補助金を利用し、厨房のガス給湯器と冷凍冷蔵庫も購入しました。また、島根県介護ロボット等導入支援事業費補助金の交付をうけ、入浴支援として浴室の個浴用リフト付シャワーキャリーを購入しました。車両についてはすべての車両が 10 年以上経過しており、引き続き更新を検討していきます。

2. 保守点検の実施

- ① エレベータ点検（3 ヶ月に 1 回）、遠隔監視メンテナンス（月 1 回）「東芝エレベータ（株）」
- ② 厨房リフト点検（月 1 回）「山陰エレベータ（株）」
- ③ 消防用設備点検「火災報知設備、消火器具、防排煙制御設備等」（年 2 回）「和幸電通（株）」
- ④ 消防用設備点検「スプリンクラー設備、非常電源等」（年 2 回）「（株）吉谷」
- ⑤ 自家用電気工作物点検（月 1 回）「小森電気管理事務所」
- ⑥ 千鶴・給与大臣・ほのぼの保守「ティーエスケイ情報システム」
- ⑦ その他

3. 修繕関係

今年度は建物定期点検の指摘箇所を含む箇所（①2F・3F の手すり柱脚の基部分②門扉

縦格子劣化 1 本③屋上タンク塗装）の修繕を行いました。見積比較のうえ、昨年度の屋上防水工事の実績のある大同建設に依頼し完了しました。特浴担架については、ローラーフレームやバッテリー、配線等の修理をしています。

令和 5 年度 消防関係の報告

【総 括】

消火、通報、避難の訓練について、6 月に図面による想定訓練を行い、避難方法、行動の流れについて再確認を行い、10 月に消防立ち合いのもと実際に想定した訓練を実施しました。合わせて消火栓の訓練も行い、取り扱い方法について理解を深めました。事業継続計画について感染時、災害時を想定した計画を策定し、見直しを進め実効性を高めていきます。

R5 年度実施訓練一覧

月 日	訓練参加者	内容
4 月 24 日	原	新人研修
7 月 5 日	石倉、藤原、河野、原、石川	総合訓練
9 月 8 日	名原	新人研修
10 月 4 日	石倉、藤原、河野、原、石川	総合訓練
11 月 2 日	橋詰	新人研修
11 月 24 日	井上	新人研修
3 月 6 日	石野、佐藤、坂本、津島、永見、山本、森廣、福島、田中	BCP 計画訓練

研 修 実 績				令和5年度			
月 日	内 容	主 催 等	開 催 地	参 加 者			
4/19	新型コロナウイルス感染症対策研修会	島根県	松江	石野	福島		
8/10-9/18	介護福祉士養成実習施設実習指導者研修会	日本介護福祉士会	松江	山根			
6月、8月	医療的な関わりをどこまで行うか、周辺症状に振り回されないケア	全国高齢者施設看護協会	WEB	津島	山本	森廣	
7/19	介護保険事業者集団指導	松江市健康福祉部	WEB	石野			
8/24	公正採用選考人権啓発推進研修、人権同和問題セミナー	松江公共職業安定所	松江市	石野			
9/15	高齢者の摂食嚥下障害・誤嚥性肺炎について	医療法人社団創建会	松江市	津島	福島		
10/24	福祉サービス苦情解決研修会	島根県運営適正化委員会	松江市	石野	津島		
11/29	21老福連 中国ブロック会議	21老福連	広島県	石野			
11/30	終末期における意思決定支援	松江生協病院	WEB	坂本	津島	福島	
12/1-3	21老福連 第21回職員研究交流集会	21老福連	WEB	石野	山崎	明石	
1/18	原子力災害の社会福祉施設等の避難対策研修会	島根県健康福祉部	松江市	石野	佐藤	佐々木	
2/6	高齢者福祉サービス経営セミナー	島根県社会福祉法人経営者協議会	松江市	石野			
3/13	介護事業所の多様な人材活用セミナー	松江市健康福祉部	WEB	石野	佐藤		

2023年度事故報告

R5. 4～

										長命圏		A入院 B受診 C軽度	
a居餅 b転倒 c転落 d剥離 e打撲 f異食 g誤差 h誤嚥 i骨折 j誤配薬 kトラブル										lその他	NOは受付順	程度	介護度
NO	月日	時間	氏名	種別	内容	内容	内容	内容	内容	内容	内容		
1	4月5日	7:25		b転倒	自身で歩き、ベッドサイドで滑って転倒した。	臥床時、センサー足元に、離床時部屋の入り口に設置						C	4
2	4月8日	4:00		b転倒	自席テーブル前で車椅子から左側に下へ転倒した。	センサー、緩和マット設置。連れ出し時は見守り						C	3
3	4月12日	5:30		lその他	ベッド上バルーン抜けている。ズボンに手を入れている	体動激しい時は頻回に様子を見に行く						C	4
4	4月10日	4:00		e打撲	左上腕に黄色くなった皮下出血痕あり。	入浴時状態観察。早期対応						C	3
5	4月18日	0:00		lその他	本人のタンズより縮んだセーターが出てくる。	洗濯に出すときには必ず洗濯表示を確認する						C	5
6	4月21日	0:00		a居餅	自室の床に座り込んでいる。	滑り止めのマット使用						C	3
7	4月22日	5:10		d剥離	職員が車椅子のブレーキをかけた際に指を挟む	興奮時は思わぬ行動を取ることがあるので注意						C	4
8	4月24日	5:10		e打撲	入浴時、職員の爪が当り右手背に皮下出血	職員は爪をきちんと切っておく						C	4
9	4月24日	2:30		a居餅	センサーなり訪室もすでにベッドサイドに居餅	ベッド周辺環境整備。センサーライトをつける						C	4
10	4月24日	0:00		lその他	昼食のバナナに髪の毛が入っていた。	提供の際に確認。ヘアネット着用						C	3
11	4月25日	14:40		lその他	居室内独歩で移動しているところを見つける。	センサーの入れ忘れにて、踏んで確認徹底						C	3
12	4月27日	7:00		b転倒	他利用者誘導中に自席にて車椅子より転倒する。	椅子がいつもと違うときには居室内で休む						B	5
13	4月28日	7:00		a居餅	シャワー等通路で体育座りしている。	歩行器使用の声かけ。不穏時センサー対応						C	3
14	5月2日	11:20		d剥離	入浴時右上腕剥離発見。	シャワーチェアにタオル使用						C	4
15	5月4日	11:20		d剥離	入浴時左ふくらはぎに1cmの剥離発見。	レッグウォーマー着用。皮膚の弱い人との認識を持つ						C	4
16	5月5日	2:30		a居餅	ポータブル使用の際に滑って居餅をつく。	トイレの際はコールを押してもらい様再度伝える						C	3
17	5月8日	9:50		b転倒	センサーあり向かうもすでに転倒している。	ポータブルを使用時本人の近くに設置						B	3
18	5月11日	16:55		b転倒	居室でセンサー横で転倒している。	センサーの位置をベッドの端に合わせる						C	4
19	5月12日	6:30		lその他	ベッド上、ズボンをずらしバルーンチューブを手持っている。	体動激しい時は頻回に様子見る						C	4
20	5月25日	5:00		a居餅	ベッドサイドで座っているところを発見する。	クッションマット使用。センサー設置						B	3
21	5月31日	19:50		c転落	ホールで座布団と一緒に車椅子から転落。	座布団使用し、車椅子の変更検討						C	3
22	6月2日	16:00		a居餅	ホール床に座っている所を発見する。	離床中は見守り対応する。						C	5
23	6月7日	5:30		a居餅	訪室すると緩和マット上に降りている。	ベッド最低床、緩和マット使用						C	5
24	6月10日	1:45		c転落	ベッドから転落している。	ベッドの位置変更、左側2点柵						C	5
25	6月12日	15:30		f異食	入浴時、車椅子をワーカー取りに行っている際に石けんを口ににする。	手が届くところに物を置かない。離れる際は他職員に声かける						C	5
26	6月18日	13:30		i骨折	オムツ交換時、左下肢伸展中に左大腿骨転子部骨折。	骨折リスクの高い利用者ピックアップ共有、ケア統一						B	4
27	6月19日	12:30		lその他	ティルト車のアームレストの一部が破損しているのを発見	日頃から車椅子の状態確認						C	4
28	6月21日	10:30		b転倒	立って体横しようとして転倒する。	体横時は本人の近くで見守り						C	2
29	6月23日	13:00		lその他	使用中の車椅子のブレーキがきかずストップバーが曲がっている	故障したら早めに修理依頼する						C	4
30	6月23日	10:30		e打撲	両ふくらはぎに血腫があるのを見つける	早期発見出来るよう日々の観察						C	5
31	6月23日	15:00		d剥離	入浴の際、移動時車椅子を差し替えた時に当って剥離	足の位置を確認してから車椅子を動かす						C	3
32	6月24日	12:25		b転倒	自分でトイレに向かい、ブレーキをかけず座ろうとして転んだ	移動時は一緒に行動。						C	5
33	6月27日	10:00		j誤配薬	受診時絶食対応の予定が朝食後薬を飲んでた	情報を聞いた職員が口頭だけでなく書面に記載						C	4
34	7月5日	7:30		b転倒	訪室時ベッドサイドで左側を下にして転倒	普段と様子が違うときは思いがけない行動があること周知						C	1
35	7月7日	12:55		a居餅	訪室時、車椅子のフットレストに座っている。	センサー接触不良。不具合はすぐに交換						C	3
36	7月9日	16:20		c転落	ベッドサイドの緩和マット上に倒れている。	自分でリモコン操作したため、位置の変更						C	5
37	7月10日	13:45		a居餅	センサーを踏ぎ、その際に居餅をつく。	センサー中止し、歩行器を近くに置く。						C	3
38	7月11日	16:15		d剥離	独歩でトイレに向かい左手第三指を扉で挟む	歩行器を本人の見える位置に置く。						C	3
39	7月12日	10:00		lその他	ベッドリモコンの破損が見つかる	柵に掛けた状態でリモコンを引っ張らない。						C	5
40	7月13日	10:20		lその他	車椅子左サイドのガードが外れている。	移乗時、ボードの位置に気をつける。						C	4
41	7月14日	1:15		a居餅	ベッドサイドで戻っているのを見える。	端座位時は臥床を促す。						C	3
42	7月20日	6:50		a居餅	食後、立位バーを開けてキャッシュを上げていたためズリ落ちた。	立位バーから普通の柵に変更						C	5
43	7月21日	9:10		e打撲	入浴時靴下を脱ぎと左足首に皮下出血あり。	フットレストにカバーを付ける。						B	4
44	7月22日	15:10		a居餅	センサー有り、ベッドよりズリ落ちている。	体調不良時はいつもよりこまめに訪室						C	4
45	7月23日	15:15		b転倒	居室にて歩き、転倒している。	センサーは切らずに24時間スイッチONにしておく						B	4
46	7月25日	11:00		lその他	車椅子のアームレストにヒビが入っている。	部品の破損の時は早い段階で修理する。						C	3
47	7月25日	3:00		lその他	トイレのカートを踏んでしまいかートが外れる。	カートの不具合見つけたら早急報告する。						C	
48	7月26日	7:40		b転倒	他利用者ベッドサイドで転倒している	携帯の場所決める。センサー夜間配置。						B	4
49	7月27日	5:15		d剥離	頭頂部の剥離発見する	多動時は二人で介助する。						C	5
50	7月27日	9:30		lその他	坐薬日に洗腸施行してしまった。	坐薬洗腸表と排便チェック表両方確認。						C	4
51	7月28日	19:30		lその他	ベッド上、バルーンカテーテルの自拔行為あり	チューブと本人の手を確認する。						C	4
52	7月28日	17:55		b転倒	自室で独歩にて移動したため、転んだ。	センサー使用で対応する						C	4
53	7月28日	7:30		d剥離	車椅子移乗時、左下下腿より2×2cmの剥離	レッグウォーマー着用する						C	4
54	7月29日	8:10		d剥離	体位変換の際に左下腿に剥離があるのを見つける。	介助時は弱い皮膚状態と認識して関わる。						C	4
55	8月5日	6:00		b転倒	廊下で離れた際に転倒している。	車椅子のままではなく長椅子に座ってもらう						C	4
56	8月6日	9:30		lその他	他者の歯ブラシを入れ替わってコップに入っていた。	歯ブラシを入れる際に確認する。						C	4
57	8月7日	11:30		lその他	車椅子の肘おきが破損	アームレストはティルトリクライニングをかけてから開ける。						C	4
58	8月8日	8:30		e打撲	車椅子移動中にフットレストに足が巻き込まれる。	フットレストにカバーをつける。足の確認。						C	4
59	8月12日	2:50		b転倒	センサーにて訪室すると他利用者ベッドサイドで転倒	30分対応中はPPEを着用して見守る。						B	4
60	8月21日	11:00		d剥離	入浴後、車椅子移乗時左足を剥離する。	入浴時もレッグウォーマー着用						C	4
61	8月21日	22:00		a居餅	センサー、ポータブルトイレ前で居餅についている。	センサー位置など本人と話し環境を整える。						C	3
62	8月27日	17:30		lその他	ショート利用修正ができておらず夕食がなかった。	変更時は対応する全ての部署へ報告						C	2
63	8月27日	14:10		b転倒	センサーが鳴り、すぐに訪室するも転倒している。	センサー頻回時は離床促す。						C	5
64	8月30日	18:55		f異食	温蔵庫の上の予備食の唐揚げを食べている。	予備食を置く場所を決める。						C	3
65	9月7日	17:00		lその他	替えが充分に空気が入らないマットを使用した。	ストックを常備しておく。						C	4
66	9月9日	9:30		e打撲	オムツ交換時右手薬指に皮下出血あり	臥床時身体を引き柵に手が当たらないようにする						C	4
67	9月9日	17:15		a居餅	訪室するとベッド横に座っている。	緩和マット、センサーを設置し、動きを観察する。						C	4
68	9月16日	12:30		a居餅	車椅子とテーブルの間に居餅についている。	ワーカーから動きが見える位置のテーブルに移動						C	4
69	9月17日	11:15		b転倒	自席で額に1cm程度の剥離あり。(トイレで打ったか)	トイレ介助時、側を離れないようにする。						C	3
70	9月17日	22:10		a居餅	センサー鳴り訪室すると、床に座っている。	センサーの位置を本人と話し設置。						C	3
71	9月18日	2:00		a居餅	センサーが鳴り、訪室するとポータブルを動かして居餅	ポータブル等動かすときには職員を呼んでもらう。						C	3
72	9月19日	11:00		lその他	車椅子のアームレストを引っ張った外れた。	ヒビが入っているのがわかったらすぐに報告。						C	4
73	9月21日	14:00		lその他	リクライニングの背面角度調整ができなくなる	動きが悪い箇所の点検は慎重に行う。						C	5
74	9月22日	10:00		d剥離	入浴時、右肘より出血、剥離あり	入浴の際は柵など肘が当たるところにタオル巻く						C	4
75	9月23日	12:40		lその他	ベッドリモコンの破損が見つかる	引っ張らない用に扱う						C	4
76	9月23日	8:30		d剥離	右前腕に乾いた剥離見つける。	自らかまっているときは声をかける。						C	3
77	9月23日	9:00		a居餅	自席車椅子横に座っている。	ワーカー1人になる時間帯の見守りは必要時応援を頼む。						C	4
78	9月25日	16:15		lその他	リハビリ中に車椅子ブレーキの破損に気づく	ブレーキが緩くなって気づいた時点で報告						C	5
79	9月26日	11:00		a居餅	訪室すると床に座っている。	コールをしてもらい様声がけする。						C	3
80	9月26日	11:10		a居餅	センサー鳴り訪室すると床に座っている。	クッションマットを引き居室内環境を整える。						C	4
81	9月27日	21:50		b転倒	ホールにて車椅子上前のめりになり転倒。	側を離れるときは前にテーブル等おいておく。						C	4
82	9月29日	18:30		a居餅	コールが今されました。」と言われ右手首、右大腿部に発赤	状況に応じてセンサー設置。						C	2
83	10月3日	11:00		lその他	ベッドリモコン断線している。	異常が見つかったら事務所にすぐに報告。						C	4
84	10月3日	7:40		d剥離	ギャジャアップの際ベッド柵に脛が当たり剥離する。	ベッド柵にカバーを付ける。						C	4
85	10月9日	8:00		g誤差	朝食薬がついていなかった。	投薬チェック表を確認しながら薬ケースに入れる。						C	4
86	10月10日	10:30		d剥離	爪切りの際に左足第二指に1mmの傷できて出血止まず	血液凝固作用を弱める薬服用の利用者は特に注意						C	4
87	10月14日	7:15		b転倒	自席より立ち上がり2、3歩歩き転倒する。	職員間で情報共有を図る。						B	3
88	10月17日	13:00		i骨折	ポータブル介助時痛み(+)受診し左恥骨骨折の診断	腹圧のかけ方、医師より指導を受けて行う						B	4
89	10月20日	9:00		j誤配薬	自宅に帰っていたが、在園中と思い薬をセットした。	当日退所の利用者は投薬チェック表から消しておく。						C	3
90	10月22日	0:15		a居餅	コール。紙パンツ下げた状態で床に座っている。	センサーを足元に設置する。						C	3

91	10月26日	23:00	lその他	バルーンカテーテルが抜けて身体の上に落ちていた。	体動の激しい時には頻回に様子を見に行く。	C	4
92	10月28日	20:00	lその他	バルーンカテーテルが抜けて身体の上に落ちていた。	入眠まで頻回に訪室する。	C	4
93	11月1日	14:00	b転倒	居室前の床に倒れている	リクライニング車や車椅子は必ず居室中央には置かないようにする	C	4
94	11月1日	23:00	a尻餅	枕と掛け布団をおろし緩和マット上で寝ていた。	低床ベッドの検討、ベッド位置の変更、立位バーの変更。	C	4
95	11月3日	18:40	a尻餅	車椅子からずり落ちセンサーに座っている。	常時センサーONにする。24H対応シール貼る	C	2
96	11月3日	23:00	lその他	バルーンチューブが抜け床に落ちているのを見つける。	バルーン再挿入せず様子見、尿路感染症予防で水分摂取、陰部の保清	C	4
97	11月4日	5:00	b転倒	センサー鳴り訪室すると洗面台の前で左を下にして倒れていた	東南で協力対応。コールを押してもらう	C	1
98	11月9日	16:15	l骨折	車椅子に移乗の際すり落ちそうになり受けた際に左肩脱臼。	移乗前に身体位置確認、二名介助で行う	B	5
99	11月9日	23:00	c転落	布団を枕にして緩和マットの上で寝ていた	ベッド下に畳と緩和マット。ベッドは低床	C	4
100	11月12日	8:30	lその他	12日分の眠前の薬をセットしていなかった	上段下段で準備完了と未完了を分けておく	C	4
101	11月13日	14:20	c転落	ベッド左サイド床に右側臥位。頭に枕をはさもうと両上肢を動かす	最低床ベッドに交換。衝撃吸収マット使用	C	4
102	11月14日	19:45	d剥離	ベッド上多動。その際に左手甲に1cm剥離している	袖にレッグウォーマー着用	C	4
103	11月15日	6:00	lその他	センサー鳴り訪室すると、マットの上に座っている	センサー頻回時は離床促す。夜勤者相互に見守り	C	4
104	11月20日	10:30	l骨折	臥床中に柵などで打ったのか、尾骨に腫脹(+)	臥床時ベッド柵カバー使用、立位バーは閉じた状態に	B	4
105	11月23日	13:45	b転倒	センサー鳴り訪室すると、センサー上に横になっている	コール設置	C	2
106	11月28日	16:00	d剥離	トイレから車椅子移乗時、アームレストに右前腕が当たり剥離	車椅子の一を確認し介助を行う	C	4
107	11月29日	19:10	c転落	3階東廊下で車椅子から転落・転倒しているのを発見	夕食後は運営が、19時以降は夜勤者が見守る	C	4
108	11月30日	5:45	c転落	ベッド下で右側臥位で転倒しているのを発見	センサーに24時間対応のシール貼り、センサー起動確認	C	5
109	12月3日	20:00	b転倒	タンスへの往復時にバランス崩し、ベッドに倒れこんでいた	コールを押してもらう。本人の見えるところに貼っておく	C	4
110	12月5日	9:30	b転倒	センサー鳴り訪室すると、ベッド横で寝顔を向き仰臥位で倒れていた	体調不良時は特に行動や様子観察を細かく行う	C	1
111	12月5日	11:25	lその他	バルーンルートをストックチェアの食具に巻き込みバルーンが抜ける	バッグとチューブを一緒に持ち、位置確認後移乗	B	4
112	12月5日	18:40	b転倒	ホールで床に倒れているのを発見	お膳早めに回収し、居室へ誘導	C	3
113	12月6日	7:30	g誤薬	起床時に10時薬を服用させた	温床配膳車に薬を配った際に10時の薬をユニットの水量に貼る	C	5
114	12月6日	8:10	d剥離	左膝から出血、1cm×1cm	フットレストを上げ、足を下ろしてからテーブルに近づける	C	1
115	12月6日	12:30	b転倒	センサー鳴り声と音がする。窓際に背を向き座っている	多動時やセンサー騒ぐ場合は見守りできる場所まで過ごす	C	1
116	12月12日	4:10	a打撲	口腔ケア時、急に抵抗され手元が怪しい傷をつけてしまう	拒否があれば無理せず中止する。	B	4
117	12月12日	5:45	b転倒	音がして廊下を見ると、車椅子よりすり落ちている	低床ベッドに変更、見守りできない場合は臥床促す	C	4
118	12月13日	22:45	b転倒	巡視時、床マット上にうつ伏せ、ベッド下に頭が入り込んだ状態発見	月1利用、情報共有不足にならないようシート活用	C	2
119	12月17日	18:15	b転倒	お膳を下げようとして移動した時に転倒する	職員が終わったら下げる。テーブルの変更。	B	4
120	12月18日	16:30	b転倒	センサー鳴り訪室すると、床に座っている	本人に分かるよう印をつけてセンサーの位置を固定	C	4
121	12月19日	10:00	b転倒	転倒したとの訴え(+)コールに手が届かなかった様子	コールの位置を都度確認する。	C	3
122	12月20日	20:00	j誤配薬	眠前薬BOXの中に同じ薬が2包入っていた。	薬セット後、今回のような重複がないか確認する。	C	4
123	12月21日	2:50	a尻餅	巡視時、本人が床に座っている。	不寝時の観察。滑り止め靴下使用。	C	3
124	12月28日	17:00	j誤配薬	産薬予定日に産薬が入っていないことに夜勤者が気づく	朝、パソコン当番がチェックする。	C	4
125	12月29日	11:30	b転倒	ホール自席で靴を拾おうとし車椅子より転倒している。	靴を脱げにくいものに変える。車椅子の変更検討	C	3
126	1月2日	12:10	b転倒	姿が見えず探すとき男子トイレに倒れている。	食事介助時も職員は全体が見える位置にいる。	C	4
127	1月3日	13:50	lその他	注入用スタンドを動かした直後チューブが抜けている。	腹帯使用し、注入中15～30毎に様子見る。	B	4
128	1月7日	5:30	lその他	病院の病衣に記名してしまふ	病衣はレンタルであることを周知する。	C	4
129	1月8日	17:50	b転倒	夕食後、車椅子自走して転倒する。	食事摂取後は居室に連れ帰る。	C	4
130	1月14日	12:10	b転倒	センサー(+)訪室すると窓側テレビ前で転倒している。	体調不良時は特に注意して行動観察する。	C	2
131	1月14日	9:23	b転倒	居室介助から戻るホールで四つん這いになっている。	夜勤者と声を掛け合い対応する。	C	3
132	1月18日	13:45	b転倒	ワーカー入室見守り中に立ち上がり、前のめりに転倒。	見守り時は捕まれるものの前にいてもらう。	C	3
133	1月19日	9:13	b転倒	センサーにて訪室時すでに床で横になっている。	下肢の痛みがあるとき転倒が多いので注意する。	C	3
134	1月24日	7:30	a尻餅	自席で車椅子から前のめりに倒れている。ブレーキがかかっていたいなかった	本人がテーブルに着いたらブレーキをかける。	C	3
135	1月26日	0:30	b転倒	センサー(+)訪室すると横になっている。	端座位時は臥床を促す。	C	3
136	1月29日	11:30	ktラブル	体重計の電源コードのプラグが折れている。	使用した後は、コードを抜いて立てかけておく。	C	3
137	1月29日	16:00	a尻餅	入浴後、立って車椅子に差し替える際に足が滑り尻餅	入浴時、立位をとる際は2名介助して行う。	C	3
138	1月30日	7:00	ktラブル	プリンターの部品が破損している。	紙詰まりを直す際には注意して行う。	C	3
139	2月2日	9:00	j誤配薬	前日の薬箱確認すると薬がセットしていなかった。	声出し確認して薬をセットし、さらにもう一度確認	C	2
140	2月5日	5:20	lその他	バット交換時バルンの先端が抜けている。	交換時はバルンバックを近く持って行き注意しながら介助	C	4
141	2月9日	9:20	d剥離	口腔ケア時歯ブラシの枝を噛まれ、折れて口に傷がつく	歯ブラシを噛まれたら、力が抜けるまで待つ。	C	4
142	2月9日	15:00	lその他	薬の説明書差し替え時、説明書がないことに気づく	確認行為を医務全体で行う	C	4
143	2月11日	9:45	d剥離	トイレ介助時、足が車椅子に当たって剥離する。	移乗時足の位置を確認する。	B	4
144	2月12日	22:30	b転倒	見守り中、他利用者対応時に転倒。	他職員に声をかけられる位置で見守りする。	B	4
145	2月13日	15:20	a尻餅	音がして見に行くときホール床に座り込んでいる。	ワゴンは介助が終わったらすぐに片付ける。	C	3
146	2月19日	10:00	d剥離	ベッド上、剥離部付近より出血している。	排泄は居室対応とする。	B	4
147	2月25日	9:00	j誤配薬	産薬表に書いてあり産薬使用も、実際は洗腸日だった。	洗腸表と排便表を照らし合わせてチェックする。	C	5
148	2月28日	9:36	b転倒	センサー(+)訪室時、既に左を下にして床で横になっている。	低床ベッドに変更し、訪室時に声かける。	C	3
149	3月1日	15:00	lその他	緊急連絡先へ連絡する番号が違いからなかった。	間違いに気づいたら番号記載のすべての書類を訂正する。	C	3
150	3月2日	4:45	a尻餅	訪室するとベッドに背を向け尻餅をついている。	車椅子の位置、ブレーキの確認をする。	C	3
151	3月15日	18:15	a尻餅	ポータルトイレ横で尻餅をついている。	トイレの際はコールを押してもらう	C	3
152	3月18日	15:30	d剥離	爪切りの際、右手第1指の皮膚も切れてしまう。	切る前に皮膚と爪がくっついていないか確認。	C	4
153	3月28日	16:55	j誤配薬	洗腸予定日に産薬が入っている。	便表記入後、夜勤者同士で確認する。	C	4
154	3月25日	19:30	e打撲	排泄介助時、左大腿部が覆れていることに気づく。	関わる際は負担がかからないようにケアを行う。	B	4
155	4月3日	11:40	j誤配薬	薬箱を朝と夕間違って配り、途中で気づき回収する。	ボックスを開ける前に朝昼夕の確認をする。	C	6

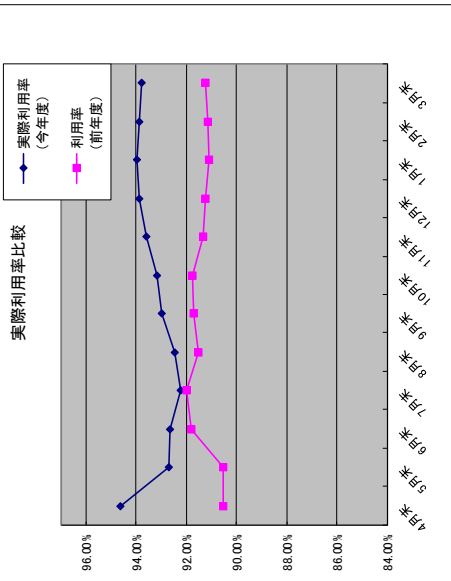
令和3年度		令和4年度		令和5年度	
種別	件数	種別	件数	種別	件数
a尻餅	30	a尻餅	18	a尻餅	30
b転倒	31	b転倒	25	b転倒	39
c転落	12	c転落	15	c転落	7
d剥離	14	d剥離	25	d剥離	20
e打撲	10	e打撲	15	e打撲	8
f異食	6	f異食	5	f異食	2
g誤薬	3	g誤薬	7	g誤薬	2
h誤嚥	1	h誤嚥	2	h誤嚥	0
i骨折	5	i骨折	8	i骨折	4
j誤配薬	33	j誤配薬	8	j誤配薬	8
ktラブル	2	ktラブル	1	ktラブル	2
lその他	43	lその他	19	lその他	33
	190		148		155

時間	件数	時間	件数	時間	件数
0～7	15	0～7	19	0～7	29
7～8	17	7～8	12	7～8	11
8～10	26	8～10	23	8～10	21
10～12	27	10～12	18	10～12	24
12～13	8	12～13	9	12～13	8
13～15	25	13～15	14	13～15	11
15～17	28	15～17	25	15～17	19
17～20	31	17～20	17	17～20	17
20～21	8	20～21	1	20～21	4
21～0	5	21～0	8	21～0	11
	190		148		155

特養入所

80人定員の

80	日数	累計 日数 ①	①*80床 =②	②*94.6%	当月在 園実数	累計在 園実数 ③	全国平均 値との人 数差異	1日平均 在園人数 累計(人)	実利用率 (今年度)	利用者数 (月末)	入院者数 (月末)	利用率 (前年度)	前年利 用者数 (月末)	前年入 院者数 (月末)
4月末	30	30	2,400	2,270	2,271	2,271	▲ 1	75.7	94.63%	78	8	90.54%	77	13
5月末	31	61	4,880	4,616	2,253	4,524	▲ 92	74.2	92.70%	80	15	90.51%	78	13
6月末	30	91	7,280	6,887	2,220	6,744	▲ 143	74.1	92.64%	78	10	91.80%	80	8
7月末	31	122	9,760	9,233	2,256	9,000	▲ 233	73.8	92.21%	78	12	91.97%	80	11
8月末	31	153	12,240	11,579	2,314	11,314	▲ 265	73.9	92.43%	80	12	91.54%	80	14
9月末	30	183	14,640	13,849	2,297	13,611	▲ 238	74.4	92.97%	79	10	91.72%	79	11
10月末	31	214	17,120	16,196	2,342	15,953	▲ 243	74.5	93.18%	80	10	91.75%	79	12
11月末	30	244	19,520	18,466	2,316	18,269	▲ 197	74.9	93.59%	80	8	91.30%	79	23
12月末	31	275	22,000	20,812	2,385	20,654	▲ 158	75.1	93.88%	80	7	91.21%	77	14
1月末	31	306	24,480	23,158	2,350	23,004	▲ 154	75.2	93.97%	80	11	91.10%	79	13
2月末	28	334	26,720	25,277	2,076	25,080	▲ 197	75.1	93.86%	80	15	91.13%	78	10
3月末	31	365	29,200	27,823	2,308	27,388	▲ 235	75.0	93.79%	78	11	91.24%	78	10



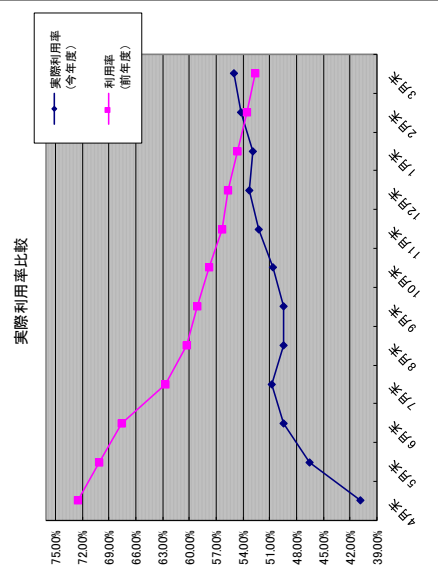
短期入所

12人定員の

12,667

10.75 1.9167

12	日数	累計 日数 ①	①*12床 =②	②*83.3%	当月利 用実数	累計利 用実数 ③	全国平均 値との人 数差異	1日平均 利用人数 (人)	実利用率 (今年度)	利用者数 (月末)	利用率 (前年度)	前年利 用者数 (月末)
4月末	30	30	360	300	147	147	▲ 153	4.9	40.83%	14	72.50%	20
5月末	31	61	732	610	194	341	▲ 269	5.6	46.58%	15	70.08%	20
6月末	30	91	1,092	910	199	540	▲ 370	5.9	49.45%	16	67.58%	19
7月末	31	122	1,464	1,220	203	743	▲ 477	6.1	50.75%	15	62.70%	14
8月末	31	153	1,836	1,529	165	908	▲ 621	5.9	49.46%	16	60.35%	14
9月末	30	183	2,196	1,829	177	1,085	▲ 744	5.9	49.41%	16	59.06%	15
10月末	31	214	2,568	2,139	217	1,302	▲ 837	6.1	50.70%	17	57.79%	17
11月末	30	244	2,928	2,439	229	1,531	▲ 908	6.3	52.29%	15	56.35%	13
12月末	31	275	3,300	2,749	227	1,758	▲ 991	6.4	53.27%	16	55.73%	12
1月末	31	306	3,672	3,059	184	1,942	▲ 1,117	6.3	52.89%	13	54.63%	11
2月末	28	334	4,008	3,339	229	2,171	▲ 1,168	6.5	54.17%	17	53.62%	14
3月末	31	365	4,380	3,649	239	2,410	▲ 1,239	6.6	55.02%	17	52.87%	13



苦情受け付け（長命園）

令和 5 年 4 月

1 日～

番号	受付年月日 氏 名	相談者	苦情・要望内容	解決状況
1	9 月 1 日	利用者	入浴中「お風呂で担当職員さんが、職員さんの悪口を言っておられました。」 「お風呂について、どうですか？」と聞いて欲しかったのに。 「他の方も嫌な思いをされるのでは…」と思い話しました。」	① 当日担当職員に入浴介助時の様子について確認を行った。内容は事実であり、私語をしながら介助施行にて、本人は不快な思いをした。 ② ケアを行っている際は、まずしっかり利用者と係わることに集中して行うこと。私語、大きな笑い声を出さないよう十分に注意を払い、節度あるケアの実施することを、当事者に注意した。 ③ 主任会議・ワーカー会議で周知した。
2	12 月 22 日	担当ケアマネ	家族より、利用後、リハビリパンツがボロボロの状態だった。利用期間中入浴は拒否なく入っている。と記載あり。入浴時パンツは交換しないのか？と確認の依頼があった。 状況を確認して報告して欲しい。	① 利用期間： R5.12.15(金)～R5.12.21(木) 19 日 21 日の 2 回入浴時交換した。但し、排泄はほぼ自立のため、細かなことまでは決めていなかった。 ② 今後は、1 日 1 回決めた時間に確認する。自宅前も必ず確認することをケア内容とした。 ③ 確認内容を報告し、家族は文書にて回答、郵送することを伝えた。

小規模多機能型居宅介護事業所 やくものお家

2023年度事業報告

2023（令和 5）年度
地域密着小規模多機能型居宅介護事業所
長命園やくものお家 事業報告書

5 月にはコロナが「5 類感染症」に引き下げられ、会えなかった家族との交流も少しずつ再開できた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？やくものお家でも感染予防として、定期的な換気、消毒などを徹底的に行いつつ、面会は自由に行っていただくなど利用者様の気持ちに添える対応が出来たのではないかと思います。まだまだクラスターが発生したり、同時期にインフルエンザが流行したりということがありましたが、やくものお家ではクラスターが発生することなく、皆様お元気に通ってきてくださいました。コロナだけではなく、ご家族の急な入院や本人の体調不良時など、サービスの切り替えを行い、小規模多機能だからこそそのサービスの提供を行い在宅生活を続ける上での支援が行えたと思います。しかし、以前とは家族形態や考え方などが変わってきていることも事実で、要介護状態が軽い方でも施設入所をご家族が希望される事が増えています。市内にも有料老人ホームやグループホームなど入所施設も増えたことにより、より入りやすくなっているのも事実だと思います。「中重度になっても在宅での生活を支援するため」に設立された事業ですが、社会自体の考え方が変わってきているのではないのでしょうか？

本年度のやくものお家の平均介護度は 1.54、平均登録者数 21 名、登録率 84%でした。

「泊まり」の 1 日平均 3.3 名。少ない日もありますが、定期的に宿泊をされる方が増えています。ご自宅での介護に疲れを感じているご家族もあり、休息のために泊まりも上手に利用してもらいながら、在宅での生活を支えていけたのではないかと思います。

「訪問」利用は月平均 89 回。加算の 1 つ「訪問体制加算」の条件である月 200 回には程遠い数字です。毎日訪問サービスを利用しておられたご利用者が契約終了となったことも昨年度に比べ少ない理由の一つです。

登録に空きがあっても職員不足から受け入れが出来ない状況もあり、また求人募集をしても応募がなく、利用希望者を断らざるを得ない状況もあり心苦しいこともありました。収入を増やすためにも人員確保は必須です。人員確保をするためにも収入を増やさなければなりません。収入確保の一つに加算を漏れなく取ることも大事であり、次年度から「特別地域加算」の取得をしていきます。

地域や病院などへの営業活動にも力を入れやくものお家をもっとアピールし、職員一丸となってお利用者、ご家族が安心して在宅生活が送れるよう協力しながら行っていきたいと思います。

【実践項目】についての報告

1. 利用率の向上と安定的経営

①介護収入確保のため 25 名登録を目指し、継続的に営業活動を行っていきます。

→25 名登録を満たす月はなかったが、20 名以下になることはなく、登録率も 84%であったが、平均介護度 1.54 と軽介護者が多く、収入の伸びには繋がらなかった。

また、人材確保に苦戦し営業活動を継続的にすることが出来なかった。

②減収の原因となる入院者をなくすために日々の健康管理に努めます。

→日頃からの健康観察をし、いつもと違う様子が見られた場合など家族や利用者の主治医と連携しながら早期対応に努めた。

③登録者を確保するために、人材の確保、育成に努めていきます。

→求人を出すも応募がなく、職員不足で新規の受け入れを断ることもあった。

④BCP（事業継続計画）の策定を行います。

→次年度からの義務化に向け策定を行った。

2. 健康管理・予防について

①職員は出勤前には必ず検温をし、発熱や体調不良などの症状が認められる場合には出勤を行わないことを徹底します。

→出勤前の検温を徹底し、事前に検査キットの配布などをし感染予防、拡大に努めた。

②手洗い、手指消毒の徹底、手すりや椅子、ドアノブやテーブルなどの消毒をこまめに行い、感染症等の予防に努めます。

→手洗い、手指消毒は都度行い、手すりや椅子などの消毒などは時間を決め行った。コロナウイルスの陽性者が発生したが、利用者 1 名、職員 1 名のみで拡大することなく事業も継続して行うことが出来た。

③各居室、リビングの換気を 1 時間おきに 10 分間行います。

→時間を決めて行った。

④職員は休憩室で一定の距離を保つなど、密にならないよう努めます。

→現在も継続的に行っている。休息もしっかりと出来ることで業務の効率化に繋がっているのではないかと思う。

3. コストの軽減

①備品は大切に扱い、光熱費や車両関係面での無駄をなくすよう常に意識を向けながら業務に取り組みます。

→使用していない居室の電灯や電気器具などこまめに消すよう周知していたが、エアコンなどついたまま窓を開けていたり、人がいない場所でも付いたままであったりすることもあったが、概ね注意しながら出来たように思う。

4. 職員間での情報共有・連携・質の向上と確保について

①利用者のニーズに対応した柔軟な支援が行えるよう、個々が考え意見を言い合い、尊重し合えるような職員集団を目指します。

→気付いたことがあった時など、申し送り時など都度報告したり、連絡事項伝達ノートを活用し周知するよう心掛けた。

②常に向上心を持ち、新しい知識や技術を身につけるようスキルアップを目指します。

→毎月受講することとしているeラーニング研修だが、一部受講していない職員もいた。次年度からは必ず全員が受講するよう徹底する。

③「自分だったらどうか」と常に相手の立場に立った視点を持ち、個別性を重視した支援を行っていきます。

→当たり前の事だが、プライバシーに配慮する、相手への伝え方など出来ていない時にはお互い注意しながら行った。また個々に応じた支援の仕方など話し合いながら行った。

④毎月のeラーニングでの研修に参加し、より良い支援に繋げていきます。

→一部受講していない職員もいた。

5. 利用者の安全確保

①ヒヤリハット報告書、事故報告書の分析を行い、職員全員で周知し、繰り返すことの内容再発防止に努めます。

→発生したらすぐに報告書を提出し、職員へ情報として共有した。薬のセット間違いなど同じ間違いを何度か繰り返すなど、活かされていないことがあった。一人一人が自分の中に落とし込み、繰り返すことのないようにしたい。

②自然災害（地震・水害・大雪・土砂）や火災を想定した訓練を実施し、利用者の安全確保に努めます。

→消防の方に来てもらい避難訓練の様子を確認、アドバイスをもらった。また、運営推進委員の方にも参加してもらい訓練を行った。

6. 地域との連携

①可能な限りボランティアの受け入れ、利用者と地域社会との連携強化に努めます。

→カラオケボランティアの方に来て頂いた。以前のような受け入れは出来なかった。

②地域行事への参加を積極的に行い、地域の方とのふれあいの場を提供します。

→地域活動がまだ完全には戻っていないが、八雲町の文化祭には出展し、利用者様と一緒に作品鑑賞に出かけた。

③登録者以外の高齢者に関する相談事をしやすいような風通しの良い事業所を目指します。

→登録者以外からの相談を受ける機会がなかった。もっと地域に向けてアピールしていかないといけないと思った。

④地域の清掃活動や連携会議などに積極的に参加します。

→事前に参加したい旨を伝え、公民館より声を掛けて頂き地域の清掃活動に参加した。今後も声を掛けて頂くようお願いした。

7. 緊急時の宿泊ニーズへの対応の充実

①宿泊者定員の空きがある場合ではあるが、登録者のサービス提供に支障がないことを前提に緊急時の受け入れを積極的に行います。

→登録者以外からの宿泊希望はなかった。しかし、登録者から急遽当日宿泊してほしいとの要望には応えることが出来、ご家族に大変喜んで頂いた。

8. 家族との連携

①家族からの意見、苦情、不安などは真摯に受け止め、傾聴する気持ちを忘れず、きめ細やかな対応を行い家族との信頼関係を築いていきます。

→苦情があった時は迅速に対応した。信頼して頂けるような挨拶、傾聴する事を心掛けた。

②利用開始から利用に至るまでの動機などを十分に理解し、本人と家族との関係が良好に継続できるよう支援します。

→開始前にはケアマネからの情報を職員間で周知し、本人が安心して過ごせるよう努力した。また、気軽に相談できるような声掛けを本人、家族に伝えた。

9. 情報提供・公表・苦情への対応

①毎月発行の「やくものお家たより」の内容の充実を図ります。

→毎月発行し、活動内容を知って頂けるよう内容も工夫したり、運営推進委員の方や評議委員の方へも配布した。

②各種相談や意見、苦情に対しては迅速かつ適切に対応し、運営に反映します。

→意見や苦情を言って頂ける事はありがたい事だと思い、事業所として真摯に受け止め対応した。

10. やくものお家の維持管理と環境整備

①定期的な除草作業をし、庭木の剪定や事業所周辺の環境整備には引き続きボランティアの方の協力を得ながら美しい環境を維持していきます。

→ボランティアの方に引き続き来て頂き、庭園の管理をして頂いた。

除草作業は、職員が時間を見つけてこまめに除草をしてきれいに保つことができた。

②職員一人一人が環境整備を意識し、室内や居室、リビングの整理整頓にも自覚を持って行います。

→室内の整理整頓も意識し、安全な空間作りが出来るよう努めた。また洋服や、布団、毛布などもきれいにたたみ片付けるなど意識しながら行った。

※月別利用状況他 別紙にて報告

介護度別利用人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
要支援 1	3	3	3	3	5	4
2	2	3	3	3	3	2
要介護 1	7	8	8	7	5	7
2	4	4	4	3	4	3
3	2	3	3	3	3	4
4	0	0	0	0	1	1
5	1	1	1	1	1	1
合計	19	22	22	20	22	22
平均介護度	1.46	1.46	1.46	1.46	1.54	1.64
通所／平均	286/9.5	329/10.6	317/10.6	323/10.4	310/10.0	345/11.5
宿泊／平均	105/3.5	99/3.2	82/2.7	90/2.9	92/3.0	112/3.7
訪問／平均	100/3.3	99/3.2	98/3.2	108/3.4	112/3.6	91/3.0
入院	1				1	1
退院		1		1	1	
新規		2			1	2
退所	1			2		1
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
要支援 1	4	4	4	4	4	4
2	2	2	2	2	1	2
要介護 1	8	6	5	5	5	6
2	3	4	5	5	5	4
3	3	3	3	3	3	3
4	1	1	1	1	1	1
5	1	1	1	1	0	0
合計	22	21	21	21	19	20
平均介護度	1.55	1.63	1.67	1.67	1.57	1.46
通所／平均	354/11.4	335/11.1	339/10.9	325/10.5	320/11.0	308/9.9
宿泊／平均	108/3.5	103/3.4	120/3.9	117/3.8	117/4.0	128/4.1
訪問／平均	97/3.1	109/3.6	94/3.0	94/3.0	57/1.9	20/0.6
入院		1	1		1	
退院			1			1
新規	1					1
退所	1	1			2	

介護報酬

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
2, 873, 780	3, 162, 060	3, 251, 830	3, 281, 140	2, 972, 770	3, 294, 450
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
3, 428, 430	3, 321, 120	3, 178, 250	3, 305, 040	3, 174, 960	3, 059, 070
合計	¥38, 302, 900				

介護報酬外

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
506, 060	522, 500	466, 820	491, 280	482, 580	536, 310
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
520, 045	489, 710	539, 615	522, 385	519, 035	541, 845
合計	¥6, 138, 185				

研修会等参加状況

月日	研修名
5/26	ケアマネ研修
5/16	応急手当講習
10/27	防災研修(松江市防災危機管理課)
12/14	令和 5 年度 松江市給付適正化研修会
12/24	高齢者虐待防止研修(KIND 須谷様)

e ラーニングによる研修

4 月	・身体拘束の排除の為の取り組み ・ハラスメント
5 月	・感染症・食中毒の予防及び蔓延防止
6 月	・事故発生又は再発防止
7 月	・認知症及び認知症ケア
8 月	・倫理及び法令遵守
9 月	・非常災害時の対応
10 月	・介護予防及び要介護度進行予防 ・機能訓練研修
11 月	・高齢者虐待防止 ・BCP
12 月	・接遇
1 月	・緊急時の対応
2 月	・精神的ケア
3 月	・プライバシーの保護の取り組み

行事他

4/5. 6	書道	4/10. 11	チューリップ鑑賞へ（伯太）
4/28	忌部高原へ 4月誕生会	5/11	書道
5/24	5月誕生会	5/26	避難訓練
5/31. 6/1	書道	6/8. 9. 10	運動会
7/5. 6	書道	7/7	カラオケボラ森山様来所
9/20. 21	書道	9/21	9月誕生会
9/27. 28	敬老会（ゲスト石倉様・北川様）	10/21. 22	八雲町文化祭
10/25	地藏法要	10/26	10月誕生会
10/31	おちらと村へ	11/2	熊野大社へ
11/3	八重垣神社へ	12/18	クリスマス会（ゲスト角様他）
12/28	餅つき	1/15	1月誕生会
2/14	節分会	2/17	2月誕生会
3/7	熊野大社へ	3/11	3月誕生会
3/15	熊野大社へ	3/16	かんべの里へ
3/18	花餅作り	3/27. 28	書道

職員の動き

入職	退職
5/17～常勤パート ケアワーカー	6/14～常勤パート ケアワーカー
9/22～常勤パート ケアワーカー	2/14～非常勤パート ケアワーカー
3/17～夜勤専属パート	2/15～非常勤パート 看護師兼ワーカー
	3/31～常勤パート ケアワーカー

研修生・実習生受け入れ状況

今年度はなし

ボランティア来所状況

庭木の剪定など（山崎様） フルート演奏（石倉様） ギター演奏（北川様）
マジックショー（角様） カラオケ（森山様）

その他

- ・ 5/10～職員健康診断
- ・ 6/16～応急手当公衆
- ・ 7/8～大雨洪水警報発令あり。通いサービス縮小 宿泊サービス縮小
- ・ 7/13～文化祭実行委員会
- ・ 9/7～文化祭実行委員会
- ・ 10/1～八雲町奉仕作業（理事長、長命園事務長、高橋、嘉本）

- ・ 10/19～避難訓練（運営推進委員様と一緒に）
- ・ 1/25～大雪のため通いサービス縮小（宿泊延長した利用者 1 名、訪問に切替利用者 1 名あり）
- ・ 2/13～リビングエアコン取付（補助金におけるエアコン購入）
- ・ 2 ヶ月に 1 回偶数月に運営推進会議開催
- ・ 毎月第 4 金曜スタッフ会議開催

介護支援専門員事業報告

- ① 利用者、家族との信頼関係が築いていけるよう「誠実に向き合うこと」を心掛けます。
⇒利用者や連絡の取りやすい家族とは信頼関係が築けていたが、充分とは言えなかった。相談を受けた際はすぐに対応するよう努めた。
- ② 利用者、家族との何気ない会話にも軽微な訴えがあることを逃がさず、その改善に努めます。
⇒利用者、家族との会話から訴えを聞き支援に反映するよう努めた。また、送迎など職員から聞いた訴えなども確認し対応するよう努めた。
- ③ 支援にあたり、知り得た情報を迅速にスタッフ間で共有出来るように努めます。
⇒知り得た情報を申し送りノートやカンファレンス、会議などでスタッフに周知するよう努めたが、情報が行き渡るまでに時間がかかることもあった。
- ④ 計画作成担当者として、制度に必要とされる記録や書類をきちんと揃え、ファイリングをします。
⇒記録や書類関係を揃えるように努めた。
- ⑤ ケアマネジメントが適切かつ円滑に提供されるよう必要な知識、技術の習得に努めます。
⇒参加出来る研修には参加するよう努めた。

ケアワーカー事業報告

- ① 基本理念である「一人一人の尊厳を守り 安心の在宅生活支援」を念頭に、その人らしさを引き出せるような支援を行います。
⇒小規模多機能の特性を活かし、利用者、その家族に合わせた支援が出来たと思う。利用者自身や家族の状況に合わせてサービスを切り替えて提供した。
- ② スタッフ全員が一つのチームであることを自覚し、誰もが意見を言いやすい環境を作り、利用者へのより良い支援に繋がっていきます。
⇒カンファレンスやスタッフ会議などを定期的に行った。また、利用者の状況が変わったり、全員が周知したいことなどは連絡事項ノートへ記載し、共通認識するよう努めた。
- ③ 身体機能の維持・向上、笑顔が引き出せるようなレクを提供します。
⇒レクが得意な職員がレクを充実させるような取り組みを熱心に行い、また他の職員も協力しながらレクを行った。マンネリ化しがちなため、今後も工夫していこうと思う。外出も少しずつ増え、喜んでもらえた。
- ④ 利用者、家族との関係を大切にし、明るい挨拶、傾聴する気持ちを持ち信頼関係を築きます。
⇒送迎時など、利用者はもちろん家族への挨拶をしっかりとし、話しやすい雰囲気づくりを心掛

けた。ゆっくり話を聞いてほしい利用者に対し、出来たかと言われたら出来ていないかもしれない。向き合う時間を大切にしたい。

- ⑤ 気持ちよく過ごせるよう、また安全に過ごせるよう環境整備に努めます。
⇒リビングで使用した椅子など、こまめに片付けるよう努めた。また、居室にある毛布などの掛物や洋服など、散らかって見えないよう、整理整頓に努めた。
- ⑥ 利用者個人の持ち物を大切に扱い、返し間違いやしまい間違いのないよう徹底します。
⇒記名があるにも関わらず、他の利用者の荷物へと入れ間違いがあった。いつ、誰がしまったのかを記載するようにし、一人一人が責任をもって行えるようにした。

看護師事業報告

- ① 救命法の研修の企画実施をコロナ禍の状況を見て可能になれば行います。
⇒救急隊員の方に来てもらい研修を行った。
- ② 研修以外にも資料を活用するなど、出来る範囲で知識や技術の向上に努めます。
⇒資料を活用したり、学習会を開いたりすることは出来なかった。
- ③ 利用者の状態把握と適切な対応が出来るよう、スタッフ間の情報共有やろ容赦家族、医療機関との連携に努めます。
⇒スタッフ間の情報共有は、申し送りノート、毎日のミーティング、スタッフ会議で行い、必要時には家族へ連絡し早めの受診を心掛けた。また、服用している薬について疑問が生じたときには薬局へ問い合わせをするなど多職種との連携もとれた。
- ④ 高齢化に伴う処置、ケアを適切に行い、骨折や誤嚥などの安全面への対応を心掛けます。
⇒気づいたことは家族へ伝え、受診してもらったり薬を準備してもらった。都度適切なケアを心掛けた。誤嚥の恐れがある利用者には、トロミや食形態などを変え提供した。またそれを家族と共有し、安全面に気を付けた。
- ⑤ 薬の内容の周知に努め、確実な服薬に努めます。
⇒服薬したはずの薬が床に落ちていたり、薬のセットを間違えたりすることが何度もあった。服薬が出来たかどうか最後まで見守る必要がある。また、薬のセットを間違えることがあったため、日付、名前、いつ服用のものを確認し、同じことを繰り返さないようにする。
- ⑥ 感染予防及び発症時の対応について検討し、スタッフ間の周知に努めます。
⇒コロナが疑われる際には素早く検査対応をし、感染拡大を予防することが出来た。消毒、換気など気を付けながら行った。引き続きやっていきたい。

防火管理者事業報告

- ① 運営基準を遵守し、年2回の防災訓練を実施します。
⇒年2回の防火訓練を実施した。
- ② 防災意識を高め、全スタッフが多様な緊急時に対応出来るよう訓練します。
⇒利用者も交えての避難訓練を行った。また、玄関以外からの避難誘導も行えた。日程が合わず消防の方に参加して意見をもらうことは出来なかった。

- ③ 火災の原因となり得る可能性のある電気器具などの管理を行い、修理、買い替え必要時は素早い対応を行います。
⇒電化製品の入れ替え時など点検し、冬場の暖房や電気器具の配線にも注意した。
- ④ 非常事態に備え、備品・備蓄品の管理、購入を行います。
⇒期限切れの防災食の買い換えや、足りない備品の購入をした。

安全運転管理者事業報告

- ① 運転規則を守り、事故を起こさないよう心掛けます。万一事故を起こした際にはすぐに警察に連絡します。また、車の損傷時は速やかに報告し対処します。
⇒大きな事故はなかったが、接触などの自損事故はあり、報告がないものもあった。
- ② 県道からやくものお家までの細い道は時速 20km を守り、近隣住民との事故を起こさないよう最新の注意を払います。
⇒ゆっくり走るよう職員には周知していたが、出出勤時や送迎時など時間が気になりスピードが出ていることがあった。
- ③ 送迎、訪問時等の運転や乗降には慣れから気を抜かないよう、利用者にとって安心、安全の優しい運転を心掛けます。
⇒慣れた場所での事故が多く、送迎など狭い道を通ることが多いため注意が必要だった。
- ④ 運転時は少しの異常音や振動に対して敏感になり、事故予防に努め、半ドアや室内灯の消し忘れにも注意し、防げる故障に対処します。
⇒室内灯の消し忘れが何度かあったが、故障までには至らなかった。また、故障があった際は速やかに AutoPlus に連絡をし修理を依頼した。
- ⑤ 台風や積雪などの状態により、十分な安全が確保できるよう指導し対応します。
⇒台風や積雪の状況により、時間をずらした送迎やデイを休んでもらうなどの対応をし、安全の確保に努めた。

事故・ひやりはっと報告

令和5年度

長命園 やくものお家

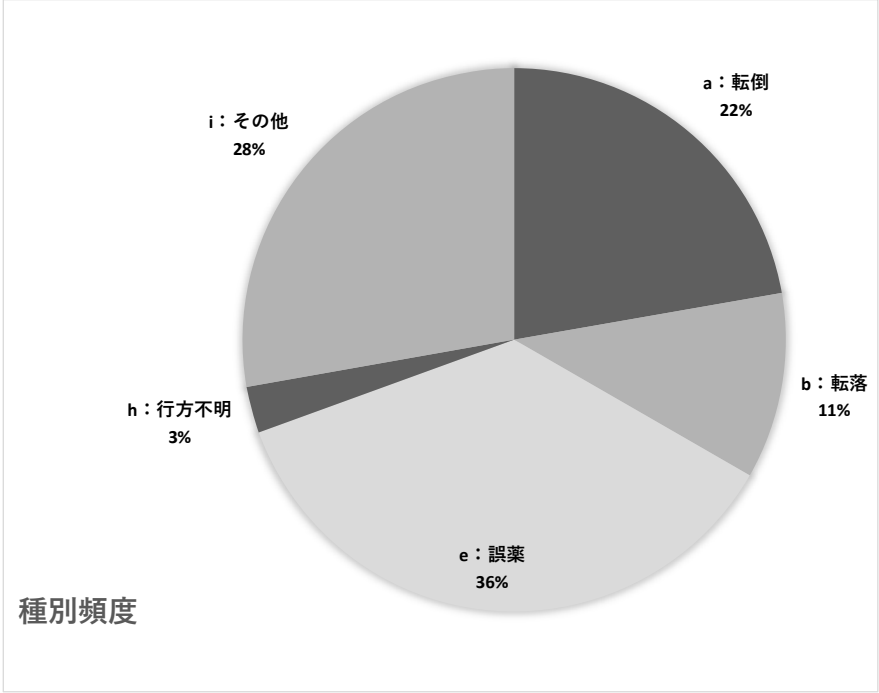
No.	月日	時間	氏 名	種別	内 容	対 策	程度	介護度
ひやりはっと報告								
1	4月10日	17:20	A	e: 誤薬	リーダーから夜勤者への申し送り時に薬の確認をしていたら薬がセットされていなかった（札もセットされていない）	・最新の予定表を確認しながらセットする（定期の泊まりであっても） ・看護師からリーダー、リーダーから夜勤者への申し送り時には必ず2人で確認。遅番も薬をカップへセットする際は、泊まりの方の確認をしながら行う。	A	要介護2
2	5月1日	18:20	B	e: 誤薬	夕食後薬を服薬する際、本人の手のひらに置いたら手を動かし、薬を落とす。	・夕食後薬が3錠あるが、それぞれ違う袋の入っているため時間がかかってしまった。なので1つにまとめてから手に置く、もしくは直接口に入れて服用してもらう。	A	要介護2
3	5月15日	18:15	C	e: 誤薬	夕食後本人へ配薬すると「緑のがなかったかいね？」と言われ、連絡袋を確認するとセットされず薬が残っていた。朝食後にも飲む薬であるにもかかわらずセットされていなかった。	・本人が何の薬を飲んでいるか確認しながらセットする。 ・連絡袋に入れてある薬を見逃さない。	A	要支援2
4	5月16日		B	e: 誤薬	5/17に前日デイを休まれたと聞き、預かっている本人の薬を確認したところ5/16朝、夕の薬が残っていた。	・休まれた日も薬を確認し、あれば自宅に持って行き服用、夕食後の薬はお薬カレンダーへセットする。 ・薬入れの引き出しに「薬を持って行く」と貼り紙をする。	A	要介護2
5	6月5日	14:30	D	i: その他	トイレに行きたいためコールを鳴らそうとするもコールボタンが見当たらなかったため本人が車椅子を押して歩行しようとしていた。センサーマットも設置しているにもかかわらず、スイッチが入っていなかったため反応せず。そのために利用者の行動に気付くことが出来なかった。	・コールボタンは必ず枕元へ返却する。 ・センサーマットは必ずスイッチを入れる。臥床したら必ずセンサーマットが鳴ることを確認する。	A	要介護2
6	6月17日	10:40	D	i: その他	排泄が終わったらコールボタンで知らせよう本人へ渡すも、音が鳴らず。本人は何度も押したが誰も来ないため自分で何とかし出てきたと言う。	・コールが反応するが確かめる。 ・コールを渡していても、時間を見て様子をうかがいに行く。	A	要介護2
7	6月20日	16:50	B	e: 誤薬	夕食後薬をセットする際、15:00のお茶の時間に服用しなければならない薬が残っていた。	・服薬があることを忘れないようメモをする。 ・看護師は、薬を置いておくだけではなく、必ず遅番に声掛けをし置いたことを伝える。	A	要介護2
8	6月22日	16:35	D	i: その他	車椅子を自操しトイレに行っていたが、ブレーキもかけず手すりをもって立っていた。	・本人の側を離れる時は声を掛ける。 ・リビングを離れる時は他の職員に声を掛け、職員の誰かがリビングにいるようにする。	A	要介護2
9	6月23日	13:45	D	i: その他	自室のドアを開け「誰かトイレへ連れて行って」と車椅子に乗り出てくる。（コールボタンは床に落としており、センサーマットのスイッチもオンになっていなかった）	・センサーマットのスイッチを必ず入れる。離れる際にセンサーマットが鳴るか確認する。	A	要介護2
10	6月28日		B	e: 誤薬	朝食後薬の残薬があった（6/15、18）（デイの日は来所時服薬するようになっている）	・デイ利用日は、夕食後薬だけではなく朝食後薬の服薬管理も必要であることを把握する。 ・朝来所後に飲んでもらうよう徹底する。	A	要介護2
11	6月29日	5:50	D	i: その他	居室から物音がしたため訪室すると、ベッドから離れたところに置いてある車椅子まで歩き立っていた。	・センサーマットのスイッチを必ず入れる。離れる際にセンサーマットが鳴るか確認する。入れ忘れない。コールボタンも作動確認をする。	A	要介護2

12	8月17日	12:50	D	i：その他	居室で食事をしていたところ、ベッドから少し離れた位置で車椅子を止めそこから立ち上がりベッドへ向かっていた。	・見つけた職員は誰かを呼びに行くのではなくすぐに対応する。 ・居室で車椅子に乗っているときは定期的に様子を見に行く。 ・ベッドの近くに行った事が分かるようセンサーマットはONしておく。	A	要介護2
13	8月21日	14:30	E	i：その他	居室入り口が開いており、確認すると奥のトイレに座っていた。センサーマット、受信機のどちらも電源がONになった。	・本人臥床時、センサーが反応するか確認する。	A	要介護3
14	9月1日	12:30	F	i：その他	リビング洗面所前の折りたたみ式テーブルを拭いている時、片側のテーブルの脚が折れ、大きく傾く。本人前のめ	・テーブルの脚がきちんとセットしてあるかを必ず確認する。	A	要介護2
15	9月3日	12:50	B	e：誤薬	掃除をしていたときに、薬が落ちていた。朝食後薬と思われる。	・手の上に乗せた後、手から落ちたり口に入らず落ちることもあるため、必ず口に入ったか、飲み込んだかを確認する。	A	要介護2
16	10月8日	9:00	G	e：誤薬	テーブル近くで何かが転がる音がし、確認すると薬が1錠落ちていた。朝食後薬と思われる。少し溶けていたため、口から出したのか、落ちたのかと思われる。	・口に入れたら終わりではなく、必ず飲み込んだかどうかを確認する。（本人口から出すことがよくあるため）	A	要介護1
17	10月9日	14:00	H	b：転落	コールがあり訪室すると、ベッド柵のところで右側臥位（麻痺側）になり、足が落ちそうになっていた。（体の下にコールが入っていたためコールが鳴った様子）いつもは缶	・コールは必ず缶の中に入れて、頭元に置いておく。 ・手が届くか確認する。	A	要介護3
18	10月12日	14:30	I	b：転落	午睡している1号室をのぞくと、頭側のベッド柵を外し手に持っていた。	外れない柵に付け替える。（Pバーにして外れないようにした）	A	要介護5
19	10月15日	8:10	J	i：その他	縁側から開き戸を開けて飛び降り、駐車場の方へ走っていった。	・常に感心を持って利用者を見守る。 ・日勤帯が来るまでは、取付ロックを外さない。窓も閉めたままにする。	A	要介護1
20	10月28日	12:30	H	b：転落	午睡をするために車椅子からベッドへ移乗する際、足が滑り、おしりがベッドから落ちそうになる。	・移乗する際は、靴を脱がずに履いたままで踏ん張ってもらえるように声掛けしてから動くようにする。	A	要介護3
21	11月4日	18:30	B	e：誤薬	本人は服薬し終わっているのに、他の利用者の薬を配薬しようとした。	・配薬する前に薬、薬を入れているカップの名前をきちんと確認する。	A	要介護2
22	11月12日	17:35	J	i：その他	本人の連絡袋の中に他の方のノートが入っていた。本人のノートは連絡ノート入れの箱の中に残っていた。	・ノートと連絡袋の名前が一致しているか確認してから入れる。 ・他のことをやりながらではなく集中してやる。	A	要介護1
23	1月14日	8:40	B	e：誤薬	お薬カレンダーから本人の薬を夜勤者へ渡す薬ケースに入れようとした際、夕食後と眠前薬が逆にセットされていた。	・薬のセットをする時も、名前、日付、時間帯を声だし確認する。	A	要介護2
24	2月24日	18:15	J	a：転倒	立とうとした際、ふらついて座り込んだ。	立ち上がる際は側で見守り、すぐに対応出来るようにする。	A	要介護2
25	3月14日	10:00	F	e：誤薬	リビングの机の下に薬が落ちていた。	・服薬管理は本人がしているため、服用後は薬が落ちていないか確認する。	A	要介護2
26	3月29日	13:20	B	e：誤薬	泊まり用の薬セット箱内の朝食後薬入れのところに眠前薬を入れていた。	・名前、日付・時間帯を声だし確認しながらする。	A	要介護2
27	3月30日	8:50	E	e：誤薬	泊まり時の薬と、当日の昼食後薬をセットしようとお薬カレンダーにセットしてあった薬を取ろうとしたところ、本人の昼食後薬が他の利用者の昼食後のところに入っていた。	・名前、日付・時間帯を声だし確認しながらする。 ・間違えて入れていた利用者は、昼食後薬がない方である。「あれ？」と違和感を感じられるよう、日頃から感心を持つ。	A	要介護3

事故報告書								
28	4月30日	6:40	K	a: 転倒	起床時に「リハパンを換えたい」と本人に言われ、座って待っているように伝えその場を離れ、戻ってみると尻もちをついていた。	・別の場所に置いていたリハパンやパッドなどは、本人の泊まりの部屋に置く。 ・トイレに案内し、座って頂き待ってもらう。	A	要介護2
29	7月7日	20:40	G	a: 転倒	センサーマットが鳴り訪室すると、「ちり紙がない」とリビングへ取りに行こうとしていた。「取ってきますので座って待って下さいね」伝えその場を離れ、戻るとベッドにうまく座れずずり落ちた様子で畳に座っていた。	・座ってもらってからその場を離れる。 ・必要なものは居室の手の届くところへ置いておく。	A	要介護1
30	8月17日	6:10	D	a: 転倒	5時の定期巡回時には入眠していた。発生時間に居室から物音がして訪室すると入口前で転倒していた。センサーもコールも鳴らなかった。	・センサー、コールが作動するか確認すること。トイレに行く際には必ずコールを押すようにその都度本人に伝える。	B	要介護2
31	8月18日	11:45	L	a: 転倒	昼食準備中、椅子を移動させる音がした途端「あ〜」と声がしたため、声の方をみると後方に倒れる瞬間だった。頭部は打っていないが右臀部を打った様子。	・職員各々が仕事をしていた。リビングでの対応を優先し、一人の職員だけではなく、多くの目で利用者を見る。 ・歩行が不安定なため、歩行時や立ち上がり時など見守る。	A	要介護3
32	10月7日	0:20	J	a: 転倒	「ドン」という音と共にセンサーが鳴り訪室すると、仰向けの状態で床に倒れていた。本人曰く「スリッパを履こうとしたら滑って転んだ」と言う。	・就寝時は靴下を脱ぐ。また、片足がベッドから落ちそうになっていることもあったため足元に椅子を置くなどして注意する。	B	要介護1
33	12月3日	4:00	J	h: 行方不明	19:40頃、眠剤服用し入眠。2:00過ぎより寝たり起きたりしていたが、いつの間にか玄関より出ていた。古志原交番巡査が保護し、連れて来られる。（職員の車の脇にいた）新聞配達の方が通報された。	・夕方から不穏な状態が見られ、何度も外に出ようとするためセンサーのコンセントを抜いていた。必ず抜いたら指すことを忘れない。不穏時に服用する頓服が処方されているので、夜勤者が分かるようにセットしておく。	A	要介護1
34	1月29日	10:50	E	a: 転倒	ストライクナインゲームでボールを投げる際に車椅子のアームレストを上げてボールを投げた途端、アームを上げた右側から床に転倒した。	・立位で投げる利用者には、転倒の危険があるかもしれないのことから、職員が近くに付くが、車椅子からの転倒は予測していなかった。必ず側に付く。	A	要介護5
35	3月2日	5:00	M	b: 転落	「ドン」という音がしたため、7号室に行くときベッドの下に落ちていた。本人「トイレに行こうとしたら落ちた」と言う。ベッドは低床にしていた。	・落ち着かない様子の時はセンサーマットを使用する。 ・エアマットではなく、普通のマットに替える。	A	要介護4
36	3月9日	3:30	B	a: 転倒	センサーが鳴り、トイレに行くことを確認。約5分後に再度センサーが鳴ったため布団を掛けに訪室すると、ベッドで端座位になっており「さっき転んだ」と本人話す。	認知力が伴わない事も推測されるが、歩行時の見守り、手引き歩行をする。	A	要介護2

	程度
A	受診なし
B	受診（擦り傷・打撲）
C	受診（骨折）

種別	頻度
a：転倒	8
b：転落	4
c：外傷	0
d：誤嚥	0
e：誤薬	13
f：異食	0
g：自傷	0
h：行方不明	1
i：その他	10



(まとめ)

令和5年度は36件の報告の内、ひやりはっとが27件、事故報告が9件であった。一番多いのが薬に関する事としてあげている誤薬で13件。薬のセットミス、飲み忘れ（配薬忘れ）など、利用者のミスではなく明らかに介助者のミスが多数である。違う利用者に対して同じミスを繰り返したりと、ひやりはっと報告書の周知をしているにも関わらず間違いが起きていた。薬の服用はとても大切であることと、飲み忘れや誤薬をすることで利用者の健康に影響があることを再認識し、減らすことを徹底していきたいと思う。

次いで多いのが転倒の8件であった。大丈夫だろうとその場を離れたために転倒につながったり、危険予測が甘かったりしたことが原因である。利用者の自立を促しつつも、安全に過ごして頂けるよう支援を行っていきたい。

また、今年度は行方不明も1件あり、警察が出動するという事も起こった。夕方から不穏であり帰宅要求も強く外に出ようとする行動もありながら、センサーのコンセントを抜いたままにしたり、またその事を職員間で共通認識出来ていなかったためこのような事が起こってしまった。幸いにも敷地内での保護となり、利用者が怪我をしたりすることもなく良かったが、外は暗く不安であったと思う。利用者に安心・安全な支援が出来るよう、日頃からの関わりを大切にし、ひやりはっと報告を活かし同じ間違いを繰り返さないよう支援に繋げていきたいと思う。

苦情相談受付（やくものお家）

No.	受付日	相談者	苦情・要望	対応
1	10月16日	長男様	(10/16連絡ノートにて) 「土曜日(10/14)ベッドの手の届く場所に 呼び出しボタンがなく、職員さんと呼ぶのに手が 届かず大きな声を出したと話していました。とても不安な時間だったと言っていました。足が立たない本人にとってすごくショックなことだったと感じます。9日にも同様のことがあり。不安がっています。対応をお願いします」と記載あり。	①午睡時、泊まり時の就寝時などは必ず缶にコールを入れ枕元に置く。 ②置いた際、手がコールに届くか確認する。 ③午睡時等部屋におられる時はCDを流す。
2	10月19日	お嫁様	毎月体重測定をしてもらって毎月体重が記入してあったのに、9月は書いていなかった。うちだけならいいが、他の人のところはどうなっているんだろう？これを参考にしている人もいると思う。いつもデイから帰ってくるたびに見ていて「今度かな、今度かなと見ていた」	①体重測定をする週を決める。看護師より量る時には朝のミーティングで発信し、出来なければ介護職員も協力して行う。 ②量った際には体重記録簿だけではなく、連絡ノート、ファイルへ記入すること。
3	11月13日	お嫁様	薬を薬入れかばんに入れて準備しておられるが、それを持ち帰るのを忘れた。 「薬をどうしたら忘れられないのか少し悩んでいます。どうしたらよいのでしょうか？」とノートに記載あり。	①かばん、連絡袋、薬の入ったかばんをそれぞれ別々の場所に置いていたため、ノートを記載した後に全てまとめて事務所に置いておく。帰宅の際には忘れず一式持ち帰る。
4	11月13日	長男様	「呼び出しボタンがなかったようで伝えることが出来ず辛かったと言っていました。ご多忙と思いますが対応よろしくお願いします」とノートに記載あり。ご本人も泣いて興奮し、「もう来たくない」と言っていた。	①入室し、休まれる時にコールが鳴ることを確認してから離れるようにする。
5	11月13日	お嫁様	「ノートを入れる袋の中にKさんのノートが入っているがそのまま返せばいいですか？」と11/12の夕方に連絡あり。 また、11/13来所時には「違う人のノートが入っていたため書くことが出来ませんでした…」と口頭で家での様子を言われる。	①ノートを入れる際には、連絡袋とノートの名前が一致していることを確認してから入れる。 ②他のことをしながらではなく集中し、意識をしてやること。 ③個人情報の流出にもなり兼ねないため、細心の注意を払うこと。
6	11月23日	ご本人	連絡ノートに 「昨日の夕食のおつゆは、まるで醤油汁そのもののようで、初めて残しました。今までにも材料によって辛すぎる事がありましたが、我慢して食べていました」と本人より記載あり。	①厨房に連絡し、改善を求めました。

R5年度 月別利用状況

R4年度 合 計		介護報酬	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年比
41	支援1	¥ 3,438	3	3	3	3	5	4	4	4	4	4	4	4	45	4
41	支援2	¥ 6,948	2	3	3	3	3	2	2	2	2	2	1	2	27	-14
68	介護1	¥ 10,423	7	8	8	8	7	5	8	6	6	5	5	6	77	9
69	介護2	¥ 15,318	4	4	4	4	3	4	3	4	5	5	5	4	48	-21
22	介護3	¥ 22,283	2	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	36	14
6	介護4	¥ 24,593	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	8	2
16	介護5	¥ 27,117	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	10	-6
263	登録者合計 (未集計)		19	22	22	20	22	22	22	21	21	21	19	20	251	-12
3451	デイ利用数		286	329	317	323	310	345	354	335	339	325	320	308	3891	440
918	宿泊利用数		105	99	82	90	92	112	108	103	120	117	117	128	1273	355
1322	ヘルパ利用数		100	99	98	108	112	91	97	109	94	94	57	20	1079	-243
¥38,639,010	介護報酬		¥2,873,780	¥3,162,060	¥3,251,830	¥3,281,140	¥2,972,770	¥3,294,450	¥3,428,430	¥3,321,120	¥3,178,250	¥3,305,040	¥3,174,960	¥3,059,070	¥38,302,900	¥-336,110
¥4,986,790	その他報酬		¥506,060	¥522,500	¥466,820	¥491,280	¥482,580	¥536,310	¥520,045	¥489,710	¥539,615	¥522,385	¥519,035	¥541,845	¥6,138,185	¥1,151,395
¥43,625,800	合計		¥3,379,840	¥3,684,560	¥3,718,650	¥3,772,420	¥3,455,350	¥3,830,760	¥3,948,475	¥3,810,830	¥3,717,865	¥3,827,425	¥3,693,995	¥3,600,915	¥44,441,085	¥815,285
8人	新規登録者		5/4女性(1) 5/10男性(3)				8/2女性(変1)	9/18女性(3) 9/22女性(1)	10/2女性(1)		12/25女性⇒2			3/5女性(1)	7人	
7人	利用中止者		4/5男性(2)			7/27女性(1) 7/31女性(2)		9/26男性(変2)	10/11女性(3)	11/18女性(1)			2/20女性(5) 2/29女性(2)		8人	
3648	昼食数		298	344	333	341	321	353	362	343	347	334	325	306	4007	359
1372	夕食数		152	155	134	136	136	162	143	127	142	141	138	153	1719	347
954	朝食数		103	97	84	90	91	91	109	104	121	116	116	129	1251	297
¥266,389	ガス代金		¥25,674	¥19,272	¥16,604	¥9,135	¥11,269	¥13,887	¥18,689	¥25,366	¥29,408	¥29,942	¥30,475	¥26,741	¥256,462	¥ -9,927
	電気代														¥0	¥ -
¥374,649	水道・下水道代		¥29,942	¥29,942	¥33,902	¥33,902	¥34,397	¥34,892	¥35,387	¥35,882	¥35,882	¥35,882	¥34,397	¥34,892	¥409,299	¥ 34,850
¥785,361	カッパ代		¥57,193	¥51,544	¥46,641	¥58,036	¥73,904	¥64,455	¥55,790	¥67,386	¥60,226	¥57,184	¥63,059	¥54,369	¥709,787	¥-40,874
	灯油代		¥1,998							¥6,264		¥6,534	¥15,620	¥4,284	¥34,700	
			¥59,191	¥51,544	¥46,641	¥58,036	¥73,904	¥64,455	¥55,790	¥73,650	¥60,226	¥63,718	¥78,679	¥58,653	¥744,487	

こばと保育園

2023年度事業報告



こばと保育園 令和5年度事業報告書

<保育園をめぐる情勢>

- ・新型コロナウイルスが令和5年5月8日以降第5類となり、保育や園行事について、必ずしも以前の様に戻す必要がないものあれば、工夫しながら開催する等、改めてどのように行っていくことがより良いのか職員や保護者の方と議論し考える機会となった一年であった。
- ・少子化が急速に進み、全国的に保育園の0才児入所人数が大きく減ってきている。松江市との懇談の中でも、0歳児の入所の減少が少子化が進んでいるからだけではなく、育児休業の取得による影響も大きいと報告があった。こばと保育園でも1歳児からの入所希望が近年増えている傾向にある。松江市内の保育園においても、保育定員を減らした園や定員割れからの新年度スタートの園もあった。こばと保育園では4月スタート時は0歳児4名(2022年度11名)で3月末は15名にはなったものの、2024年度も前年度同様かなり厳しい状況からのスタートになる。松江市の所長会でも、0歳児がいないことは園の運営にとって大きな影響があることから、今後松江市としても考えていって欲しいことが話題になっている。
- ・職員の配置基準において、国が2024年度より4.5歳児においては改していく方向に進んだ。しかし保育現場においては十分な改善であるとは言えず、2026年以降に1歳児の配置基準が先送りになったことには納得できない。職員が安心して保育できる配置基準でないこと、十分な処遇改善になっていないこと等が影響してか、保育士が確保できないことが保育現場として大きな課題である。子ども達にとっても安全にのびのびと過ごせる環境になるように国としても対策を早急にとって欲しい。

<こばと保育園では>

- ・園内行事は、親子遠足、クラスごとの公開給食、おじいちゃん・おばあちゃん遊びに来てね、を復活することが出来た。また前年度より規模を拡大し親子運動会、ニコニコバザー、卒園式を開催した。開催にあたり、職員間や保護者会等で話し合いをしながら行えて良かった。子ども達の様子を見てもらい、保護者の方も喜んでおられた。
- ・0才児が4名でスタートし、3月には15名にはなったが定員20名には及ばなかった。全園児数も131名で終わった。
- ・今年度は、コロナウイルス感染症以外の感染症にかかる園児や職員が多く、職員が十分に確保できていない日もあり、協力しながらの保育となった。また、働き方改革の影響もあるのか、園内・園外研修に対しての職員の意識が薄くなり参加者が減っている。学びを通して気持ちを同じに保育に向き合っていきたい。
- ・古志原ボランティアの方と共に干し柿作りを行った。ボランティアの方と子ども達が交流しながら、楽しい雰囲気で作ることができ、「また来年度も声をかけて下さい。」と言われた。

令和 5 年度 事業報告（年間行事）

こぼと保育園

月	園内行事	保護者会行事	年長行事	その他
4	入園の集い			
5		大掃除、草取り		尿検査
6			笹巻きづくり	内科検診・歯科検診
7			合宿（こぼと）	
8				
9	4,5 歳キャンプ			
10	親子運動会		三瓶登山合宿（1 泊）	歯科検診
11	芋煮会	バザー	干し柿作り	松江市一斉開放日 内科健診・歯科健診
12	クリスマス会			
1		餅つき大会（3. 4. 5 児） ※12 月予定が延期	合宿（こぼと泊）	
2	節分		雪山合宿（こぼと泊） 松江部合同リズム （こぼと泊、2 泊 3 日）	新入園児面接
3	卒園式		合宿（こぼと泊） ※1 泊 2 日を 2 回	

* クラス懇談会 各クラスによって随時

* 避難訓練・消火訓練毎月 1 回 （年 1 回不審者対応）

* 誕生日会・お弁当の日・身体測定・・・月 1 回

令和5年度 りす組(0歳児)総括

保育目標

- ・眠る、食べる、遊ぶのリズムが安定し機嫌よく生活する
- ・保育士との信頼関係を大切にし、情緒の安定を図りながら意欲的に生活する

生活

食事～入園当初は集中できず、落ち着かない子や食べることを嫌がる子、食材に手が出ない子もいたが、手づかみ食で意欲的によく食べるようになる。

後半になってくるとスプーンを使いたがる子も増え、上手に使って食べていた。

月齢の高い子たちは食事が終わると自ら席を立ち、皿やコップを片付けようとする子もいる。

睡眠～30～40分すると必ず起きてくる子がいたが、まとまって寝られるようになる。

布団での入眠は嫌がり、抱っこで寝ることが多い子もいる。

着脱～月齢の高い子たちはパンツやズボンを履こうとする。ロッカーから自分の服を出そうとする。脱ごうとする子もいるが服が小さくてなかなかできない子もいる。

排泄～おしっこが出ると「ちっち」と言葉で伝えたり、パンツを脱いだりして知らせるようになる。

清潔～「きれいきれいしよう」と言うと言シャワーに向かう子が増える。食事前に手を洗いに行くことがわかり、石鹸を要求したり、自ら水を出して洗おうとしたりする。

遊び

園庭遊び～水に触れて遊ぶことを好み、砂場でも水を出すとよく遊んでいた。水を求めて水道へ向かう子もいた。後半にはスロープを自ら下りて庭に出ていく子が増えた。月齢の高い子は保育士の真似をして道具も使いながら遊ぶようになった。園庭に向かいづらく、他の子が出ていても出ようとしない子もいる。

水遊び～ブルーシートやビニールプール、たらいなどを使い、月齢に合わせてそれぞれがしっかり水に触れて遊べるようにしていった。水がたくさん溜まっているプールは最初怖がっていた子も後半にはしっかり浸かって遊べるようになった。

散歩～あまりたくさん散歩に出かけることができなかったが、香ノ木池に行き、鯉やカモへの餌やりを楽しんだり、歩行ができる子は歩きながら自然物に目を向けることができた。

絵～冬頃から絵を描き始める。絵を描く経験もなく、興味がない子が多かったので大きな紙に描くことを繰り返してきた、月齢の高い子達は描きたいアピールが大きく、よく描いていた。

認識

絵本～手遊びが始まると自然に集まってくる子が多かった。集中して見ることができた子が多かったが途中から興味なくなったりバタバタする子もいた。絵本の中のフレーズを保育士と一緒に言ったり、指さしたり体を動かしたりして楽しんでいた。

言葉～月齢の低い子が多く、あまり言葉ははっきり出なかったが、友だちの名前を呼んだり、保育士とのやり取りを楽しんだりする子が増えてきた。

仲間との関わり～後半になり、仲間との関わりが出てきて笑い合ったり、頭をなでたりする姿が多くなった。トラブルも見られるようになり、かみついたりひっかきも出てきた。

自己評価

年度途中で入園してくる子が多く、毎月落ち着かない日もあったが、子どもたちが安定して過ごせるよう保育士がゆったり関わるようにしていった。月齢の低い子も多かったので活動を分かれながら、子どもたち自ら動きたいところへ動けるように連携しながら保育していったように思う。

保護者支援では、途中入所の子が多かったため、まずは保護者と話をたくさんしていき、信頼関係を築いていけるようにしていった。まだ信頼関係がしっかり築けていない保護者もいて要求をするには難しさを感じた。

令和5年度 うさぎ組(1歳児)年間総括

保育目標

- ・保育者と一緒に水・砂土に触れて遊ぶ
- ・生活や遊びの中で自分でしようとする

【生活】

- ・食事は年度当初より手掴みで意欲的に食べる。メニューによってはおかわりもよくしていた。苦手な食べ物も自分から食べてみる姿も増えてきて食べたら食べる事が出来て喜ぶ姿も見られた。食事が終わると保育士の模倣から食器を片付けるようになる。
- ・睡眠は途中で目が覚めていた子も夏頃より一定時間よく寝るようになる。自ら布団に入って寝付く子もいた。保育士が寄り添うと安心して寝付く子もいる。
- ・排泄は自らトイレに行く子が増えたのでトイレに行きやすいように広いスペースを作っていた。トイレでする心地よさが見られる。便も自立した子もいた。
- ・着脱も年度当初は保育士が側で見守ることが多かったが自分の洋服入れがわかり、自分で選び着替えるようになる。興味の薄い子は時間が掛かるが待つことでやろうとする気持ちが育っていった。

【遊び】

- ・園庭遊びを中心に遊んで行った。すべり台に向かっていた子どもたちが砂遊び、水遊びを楽しむようになる。子ども同士の関りも増え、同じ場でごちそう作りや泥んこ遊びを楽しんでいる姿が見られるようになった。虫探しも好きな遊びとなる。
- ・危険に対する認識が持ちにくい子もいたので小グループで散歩に行った。小グループで散歩に行くことで普段、声が聞き取りにくい子もよく話したりよく歌ったりする姿がみられよかった。欠席の多い日は畑に散歩によくいった。畑の野菜に興味を持ち、芋ほりなどの収穫も楽しんでいた。

【リズム】

- ・毎日、部屋や芝生で口ピアノ歌い楽しんでやっていた。後半はピアノでのリズムを楽しみ、やりたいリズムをリクエストするようになる。遊戯室でも伸び伸びとやる子どもたちだった。幼いながらも年長さんに憧れて年長さんみたいと立って歌ったり年長リズムを模倣したりしていた。ロールは後半、何回かすると子どもたちも心地よさそうにしていたがなかなか時間がとれなかった。

【保護者支援】

- ・信頼関係を築くことを大切にしていた。今年度はバザーなどの行事が戻ってきたので丁寧に説明をしていた。保護者の中には保護者自身が不安定だったり子どもへの心配が大きかったりする家庭もあったので個人面談でゆっくり時間を取って話を聞いていった。

【反省】

- ・複数担任なので連携を大事にしていた。日々子どもの話をしていき手立てについて話ができ良かったと思う。保育について学習する時間がもう少し持ってもよかった。

令和5年度 こじか組(2歳児)年間総括

保育目標・一人ひとりが安心して園生活を送り、自分を出せるようにする

・基本的生活習慣の自立を目指し、身の回りのことを自分でする

<生活>

食 事・友だちと会話をしながら楽しく食べる姿が増えている。苦手な物でも食べようとする姿があり、盛られた量を完食する。よく食べる子と食べにくい子といた。

睡 眠・落ち着いて布団に入ることができた。後半は自分で寝つけることを大事にしてきた。自分で身体を休められる力もついている。1名寝つきにくい子がいたが、1年を通し気持ちの切り換えもできるようになり布団へ入れるようになっている。

着 脱・薄着を心掛けることで体をしっかり動かすことができた。活動になると子ども達も自ら着替えるようになった。数名着脱に時間が掛かる子がいた。

排 泄・ほとんどの子が排泄が自立した。お昼寝起き布団で漏らすことも減りトイレへ向かう。数名出ても何も言わない子がいた。

お手伝い・遊んだものの片付けを進んでしてくれる。

<遊び>

園庭遊び・外遊びが大好きな子ども達であった。前半は保育者を介して水や砂、泥に触れて遊び、後半は子ども同士で遊びごっこ遊びへと広がっていった。気の合う仲間と思いきいの遊びを楽しんでいる。スコップも使いたく旧園舎で使うことができた。道具を使うことで遊びが広がり、泥んこ池や穴掘りなど楽しめた。

散 歩・毎日のように散歩に出た。自然物に触れたり、斜面登りや変化のある山道を歩いたりすることができた。近場から距離を伸ばして遠出の散歩もできるようになり、最後は山登りもできた。季節を感じながらしっかりと身体を使った散歩ができた。自然物に興味のある子が多く、見つけては大事に持ち帰る子ども達だった。採った物でクッキングも楽しむことができた。

プール・毎日のプールでしっかりと水に触れて遊ぶことができた。水の苦手な子もいたが毎日入ることで成長を見せてくれた。後半は顔付けが楽しくなりプールの中で潜る姿が増えた。あぶくたったやむっくり熊さんの集団遊びも行い好きな遊びの一つとなりみんなで盛り上がり楽しめた。

集団遊び・待て待て遊びからおおかみごっこ、しっぽ取りと楽しめるようになった。一つのことにみんなで盛り上がりもう一回と繰り返し楽しめた。仲間を応援したり、声を掛け合ったり仲間との関りも広がった。

お 話・集中して落ち着いて聞く子どもが多かった。好きなお話は繰り返し読んで楽しむことができた。お話から遊びへと繋がり楽しむこともできた。

絵 ・前半はなかなか描けなかった。年明けから描く機会を増やし、夕方1対1で描いてきた。家族や担任、友だちいっぱい楽しい絵を描いている。子どもの様子を見ながら個室でも描いた。

リズム・身体を動かすことが楽しく「リズムしたい」という声がよく聞かれた。動きやすい服装に着替えリズムに向かっていった。クラスでのリズムを繰り返しやることで出にくかった子が出られるようになった。

<反省>

・穏やかな子ども達で、友だちとのトラブルも少なかった。思い通りにいかないと泣いて気持ちを出す姿を見て、泣くことも表現の一つとしっかり泣くことを見守ることもあった。自分で気持ちを切り替えられるようになった。また言葉で伝えることを大事にしたことで会話を楽しめるようになった。

・懇談会やレク、バザーなどを通し保護者さん同士の関りも広がっていった。子ども達の話をしてながら私たちが大事にしていることを伝え同じ気持ちで保育できた。伝えることの大切さを学んだ。

令和5年度 こぐま組(3歳児)年間総括

年間目標 ・ 基本的生活習慣を身につけ、友だちと楽しく生活する
・ 全身を使って意欲的に遊ぶ

生活

食事～よくおかわりをして食べるクラスだった。食べる量が少ない子には、盛る量を減らして食べ切った達成感を味わえるようにした。苦手な食べ物も少しずつ食べられるようになり、自信に繋がっていた。

睡眠～寝付くまでに時間が掛かるクラスだったが、ほとんどの子が自分で布団に入り、大人の寝かしつけがなくても寝付けるようになった。

排泄～遊び込んでいるとその場で排尿、排便をしてしまう子がいたが、ほとんどの子がトイレで排尿、排便が出来るようになる。排便は大人にお尻を拭いてもらう子が数名いる。

着脱～ほとんどの子が自分で着脱ができる。脱いだ服の片付けは、できない子が多かったが、自分で気づいて片付けが出来るようになってきた。

遊び

園庭遊び～多くの子が泥んこになって遊ぶことができる。泥沼に寝転ぶ、泥んこすべり台を滑るなどして泥に沢山触れながらダイナミックに遊ぶ。砂遊びでおままごとやさら粉作りに夢中になって遊ぶ。おままごとは、家族ごっこをしながら楽しむことが多くなった。

集団遊び～しっぽ取りやバナナ鬼をして遊ぶ。鬼にタッチされると怒る子もいたが、全員が気持ちを切り換えて、ルールを理解し遊べるようになった。また、年度当初は、遊びが続かないことが多かったが、自分たちで遊びを展開しながら、遊び込めるようになってきた。

散歩～散歩にたくさん出掛け、沢山自然に触れた一年だった。よく歩く子と歩みにくい子の差が激しく、歩みにくい子は途中で泣き出す、立ち止まってしまう等していたが、最後まで歩くことが出来るようになった。

製作～こいのぼりや輪飾り、七夕飾りなど、様々な製作をした。大人が作り方を説明すると、子ども同士で教え合う姿が見られた。ほとんどの子が楽しみながら集中して製作に取り組むことが出来る。

クッキング～ホットケーキ、柏餅、夏野菜カレー、花餅など、様々なクッキングをした。夏野菜カレーは、自分たちが畑で作った野菜を使ったため、苦手な野菜も頑張って食べる姿が見られた。

友だち～友だち同士での関わりが多くなり、友だち同士で遊べるようになった。友だちに自分の気持ちが伝えにくい子がいたが、自分の気持ちを出せるようになり、対等な関わりが出来るようになった。

絵～友だちの絵が沢山出るようになった。絵の意味付けを楽しそうに大人に伝える姿が見られた。絵を描くことが好きな子が多く、何枚も描いて楽しんでいた。

認識

言葉～経験したことの説明を上手に伝える事が出来るようになった。

お話～全体的に落ち着いてお話を見ることが出来るが、じっとしておられず、遊びに行ってしまう子もいる。

集団で見られない子は、別室で個別に読み聞かせをすると落ち着いてお話を見ることができた。

保護者支援、自己評価

個人面談をし、保護者の思いや担任の思いを共有することが出来た。連絡ノートや口頭で、子どもの園での様子を伝えることが出来たと感じる。子どもについて不安がある保護者には、より気にかけるようにし、子どもについての前向きな言葉がけを掛けるように取り組めた。

令和5年度 ばら組(4歳児)年間総括

保育目標・・・友だちの中で自分の思いが言えるようになる

生活

食事～年度当初からしばらく、給食の時間になるとわざとに外に出る男児集団がおりなかなか給食が食べられなかった。7月に箸に移行すると箸を使うのが嬉しくて、給食を食べに来るようになる。秋頃からやっと全員で揃って食べられるようになった。

睡眠～ほとんどの子が一人で寝られるようになるが、寝かしつけが必要な子、入眠に時間が掛かる子がいる。
着脱～夏からパジャマを着て午睡をする。ボタンが留めにくい、ぎこちない子がいたが、毎日の積み重ねで自分でボタンを留められるようになる。しかし、着替えるのが面倒でそのまま布団に入る子がいたため声掛けが必要だった。

遊び

園庭遊び～ままごとから始まり、後半は自分たちで鬼ごっこをして遊ぶ姿がある。大人を求めず自分たちで遊びを始めていた。

集団遊び～年間通してしっぽ取りを繰り返し遊ぶ。その他、バナナ鬼、ヘビじゃんけん、手つなぎ鬼、あみかけたをした。男児が中心となって遊ぶが、あまり走らなくてもいい遊びには女兒が参加しやすかった。

散歩～自然物を求めて散歩に出かける。なるべく長距離を歩くようにした。足取りがゆっくりだった子がいたが、年度当初に比べるとよく歩けるようになった。

山登り～春に二回、秋に一回京羅木山に登る。同じ山に上ることで自然の変化に気付きやすく、子ども自身が見通しを持って歩く事が出来て良かった。

製作～折り紙は繰り返し折るようにした。長靴作りではかがり縫いをしたが、子ども達はとても集中して取り組んでいた。針を使った活動として、切り干し大根作り、ウォールポケット作りをした。

畑～畑の野菜に対して、思いが強い子ども達だったため、案山子づくりを提案しみんなで取り組んだ。ロッケと名付けて、親しみを持っていた。

クッキング～柏餅、ワラビ混ぜ寿司、てんぷら、大根もち、サラダ等自分たちで採ってきたものを食べることに、育てたものを食べることは子どもにとっても特別な経験だった。

当番～1月末から始める。とても張り切っており、楽しみの一つになっていた。やりたくない、めんどくさいという子もいたが、担任と一緒にやったり、友だちの力を借りたりしてできる姿もあった。グループ活動を活動の中にも取り入れるようにして、グループ内の関わりを深めるようにした。

絵～基底線が出る、胴体が出るようになる。表現としては幼いが、変化は見られた。

認識

言葉～言葉がはっきりしなかった子がはっきり話すようになったり、やりとりが友だちとできるようになった。

集団の中で、自分の意見が言える姿もあった。

お話～童話をたくさん読んだ。集中して見られない子もいたが、ほとんどの子が楽しんでみている。長いお話を見るときには特別感からか、集まりがよく全員で見られていた。

保護者支援、自己評価

三者面談を行った。持ち上がりの担任だったため、また次年度年長ということを見据え主任が入ってもらった。支援が必要な子が多く、相談機関に繋げていくうちにあまり理解がなかった親が子どもに寄り添う姿が変わっていった。支援をしている子の他にも寂しい思いをしている子が多くおり、甘えが強い子、友だちに依存する子がいる。保育園が安心して過ごせる場であり温かい集団であることを念頭に、今後も楽しい保育をしていきたいと思う。

令和5年度 ほし組(5歳児)年間総括

保育目標・一つの目標に向かい力を合わせて活動し達成感や充実感をみんなで味わう

<生活>

- 食 事・合宿を重ねる事に子ども達の食欲に変化が見られ全体的によく食べられるようになった。
- ・子ども達が中心となって準備や片付けができるようになった。友だちのことも思いながら考えて動けるようになった。
- 排 泄・色々な課題や行事に不安になり、トイレが近くなる、排便が出来なくなる等、精神的な面が排泄につながる子がいた。
- 睡 眠・寝付きにくい子が多いクラスであったが、後半は自分で体が休められるようになった。
- 整理整頓・自分の物が管理できず落し物が多かったが、日々の保育を通して上手にできるようになった。
- 朝の取り組み・雑巾がけを朝と昼寝起きに毎日取り組むことができた。

<遊び>

- 散 歩・季節を感じながら遠出散歩を楽しんだ。しっかりと歩くことで体力もついていった。前半はもっと遊びたく次への行動に気持ちが切り替われない子がいたが、周りを見ながら散歩を楽しめるようになった。自然物にも目がゆき、後半は仲間と協力しながら採ったりする姿が増えた。
- 集団遊び・日に日に子ども達で行うようになり盛り上がりやすくなった。もっともっと遊びたいと一つの遊びに夢中になって遊んでいた。
- 絵 画・色々な体験を通して、経験したことやお話の絵を表現するようになった。描くことを認めていくことで自信をつけ表現するのが楽しくなっているのを感じた。
- リズム・年長リズムをすることで一人一人の素敵な姿が輝き、その姿を認め合う仲間へと変わっていった。
- 課 題・課題への取り組みを楽しみにしつつ、実際やってみると大変で思うように進みにくい子もいた。
- 目標を決めることで気持ちを高めて頑張ることができた。後半は、意欲的に取り組み最後までやり遂げようと集中して取り組めるようになった。
- 仲 間・共に生活し、一つ一つの行事や課題に取り組む中で、友だちのことを大事にする姿が増えた。
- なかなか友だちに意見が言いにくい姿があったが最後何でも言い合える集団へと育った。

<反省>

- ・年長になったことを喜び、日課となる雑巾がけや当番を張り切って取り組む姿はあったが、集まる時になかなか集まらない、話が聞けない等の姿があった。体作りを大事に生活するようにしてきた。毎日の雑巾がけやリズム、遠出散歩、畑の野菜の水やりに行くなどを繰り返すことで子ども達も体力がついてきた。
- ・一つ一つの課題や行事を通してみんなで力を合わせて活動していく中で、友だちの素敵な姿や頑張りに気づき認め合うようになった。子ども達が協力しながら主体的に生活を進め、何でも言い合えるようになった。集団が育つことでみんなが意欲的に活動に取り組むことができた。
- ・卒園式前にインフルエンザが流行り、卒園式を4月1日に延期した。最後の一週間はやりたい事が沢山あったが、毎日楽しく活動しながら心と体が大きく成長しているのを感じた。最後まで子どもを信じていけば変わっていくことを実感するとともに、子どものもっている力の素晴らしさを感じた一年であった。

令和5年度 たんぽぽ組（一時保育）年間総括

保育目標

- ・生活や遊びのなかで友だちとの関わりが持てるようになる。
- ・生活に必要な身の回りのことを自分でしようとする。
- ・自分の要求や思いを言葉やしぐさで表現できる。

<生活>

- ・食事：・野菜が食べにくい子、好きなものしか食べようとしない子が多くいたが、個々に合わせて量を調節したり、小規模保育園の子たちと一緒に食事をし、楽しい雰囲気の中で食事をしたりすることで、食べる意欲に繋がっていった。
 - ・咀嚼力が弱い子に対し、給食の職員と相談し、給食の時に煮野菜をつけてもらうことにより、少しずつ改善していった。
- ・睡眠：・寝付くのに時間がかかる子、すぐに目が覚めてしまう子がいたが、続けて通ったり、遊びを充実させていったりすることで、一定時間眠れるようになる。
- ・着脱：・着脱に興味を示す子、「ジブンで！ジブンで！」と自我が芽生えている子が多く、自分で着脱をしようとしたり、したりする姿がみられた。
 - ・月齢の小さい子や着脱に興味を示さない子に対しては、一つ一つ丁寧に一緒にやっていくことで、自分で着脱をするようになる。
- ・排泄：・周りの子を見て、トイレに行く姿がみられた。
 - ・月齢の小さい子は、仕草や言葉で伝えられるようになった。
- ・清潔：・食事の前や、手が汚れた時に自分で手を洗いに行く姿があった。

<あそび>

- ・泥んこ遊びに抵抗なく遊ぶ姿があった。裸足になることに抵抗がある子がいなかった。園庭にでると、自分の好きな道具を取り、遊ぶ姿がみられた。
- ・子どもたち同士で、ままごと遊び等を楽しむ姿がみられた。
- ・散歩は、月齢差や人数の関係であまり遠出の散歩に行くことができなかったが、起伏のある道や階段のある道を歩いたり、月齢の小さい子も自分の足でさまざまな道を歩き全体的にしっかり歩けるようになる。
- ・室内遊びでは、一人一人の発達に合わせたアスレチックを作り、身体をしっかり動かすことができた。

<リズム>

- ・小規模保育園の子たちと一緒にリズムを行ってきた。それによって、模倣をしたり、勢いよく身体を動かしたりすることができた。
- ・月齢の小さい子も周りの子を模倣し、楽しんで身体を動かしていた。
- ・全体的に歌もよく覚え、大きな声で歌っていた。

<保護者支援>

- ・送迎時や、お便りやノート等で、日々の子どもの様子を丁寧に伝えていくようにした。
- ・さまざまな悩みを抱えておられる保護者が多かったため、一人ひとりに寄り添いながら、丁寧に話を聴いていくようにした。
- ・今年度は、懇談会、個人面談を行うことができなかった。

<評価・反省>

短期で通う子が多く、子どもたちの年齢の幅もあった為、年齢に応じた遊び、活動の保障が難しかったが、小規模保育園の子たちと一緒に活動することで、遊びや活動の幅を広げていくことができた。

令和5年度 年間総括<児童クラブ>

◎保育目標

- ・ありのままの自分を出せ、互いに認め合えるような関係作りをする。
- ・みんなで楽しく生活できるように自分たちで考え、行動する力を身につける。(自主性・社会性・創造性の向上・基本的生活習慣の確立)
- ・友だちや大人の話をよく聞き、考えて行動する。

◎生活

- ・遊んだ後の片付け、身の回り・自分の物の整理などができない子が多く、忘れ物も多かった。「自分は遊んでいない」「自分は使っていない」と物が散らかっていても気にしない子が多かった。また、遊び道具や玩具など、次に使う人のことを考えず遊んでいる子が多かった。とにかく物を減らし、玩具の整理整頓をし、スッキリさせた。身の回りがスッキリすると、片付けも少しずつ自分たちでできるようになり、床に物が落ちていることが減った。次に使う人のことも考えて遊べるようになっていった。新しいボードゲームやカードゲームは6年生が使い方の提案をしてくれ、子どもたちもそれをすぐに受け入れ、大切に丁寧に扱うようになり、ルールもきちんと守りながら遊ぶようになった。
- ・全体での話をきちんと聞けない子が多かった。静かになるまで待つ、みんなが並ぶまで待つ、6年生に任せるなどし、自分たちで考えて行動できるようにしていった。子どもたち同士で注意し合ったりし、話を聞く時はきちんと聞ける子が増えたり、並んだりすることも早くなった。
- ・遊戯室の使い方など大人に任せてくることがほとんどだった。自分たちで考えるよう促し、子ども同士で話し合いをしてもらった。時間がかかったり、言い合いになったりすることもあるが高学年を中心に、みんなが納得できるように遊戯室の使う順番を決めたりできるようになった。

◎遊び

- ・カードゲームやボードゲームは学年、男女関係なく遊んでいることが多い。
- ・遊戯室では、ドッチボール、てんか、バスケ、バレー、キャスターボードなど身体を動かす遊びを楽しんでいた。ドッチボールは男子を中心に楽しんでいたが、1月頃から、低学年だけでしたり、女子だけでしたり、今まであまり参加しなかった子たちが自分から楽しんでいるようになった。同じ子ばかり遊戯室を使っていたが、色んな子が順番に使うようになっていった。

◎保護者支援

- ・迎えに来た際にはなるべく話をするようにし、コミュニケーションを取っていった。行事の時には引率をお願いするなどし、協力してもらえるようにお願いした。
- ・連絡は、公式 LINE などを使い、何かあった時はすぐに連絡を取れるようにした。スムーズに連絡が取れたので良かった。
- ・懇談会は10月に1度だけ行った。参加人数は少なかったが、保護者の色々な話が聞けて良かった。行事の量もこれくらいがちょうどいいと思ってきている保護者も多かった。物足りなさを感じておられる保護者の方もいた。
- ・臨時休校などの時は、速やかに対応することができた。

◎自己評価・反省

- ・職員体制のこともあり、例年に比べると行事をすごく減らした。子どもたちから色々な声があった。保護者からは、ちょうどよかったのではないかという声もあった。
- ・畑も例年に比べるとなかなかできてなかった。子どもたちのやる気も感じられなかった。大人だけすることには意味がないと思った。年度当初に子どもたちと畑で何を育てたいかなど話し合いの場を設けたら良かったのではないか。

令和5年度 年間総括＜保健＞

（事故報告）

6月14日 こぐま組 Y女児 10時半頃、リズムをした後右手が上がらず。肘内障。

4月春休み中 学童3年生女児 昼食前、旧館の引き戸レールで足の指を切創。

6月土曜保育 6歳男児が玄関ドアの鍵を1人で開けて出る。オートロックがかかり入れなくなる。

10月17日 6歳K男児が遊戯室で縄跳びを使い遊んでいた時、縄跳びを飛び越えようとして左鎖骨骨折。
クラビクルバンド固定にて療養。

1月17日 救急搬送事例 2歳R男児。朝から傾眠傾向あり。11時頃、意識低下と眼球上転見られ救急車
にて市立病院に搬送、入院し経過観察。

園内で過ごしているとき、子どもだけでの活動をしている時の事故が目立った。事故報告書をもとに検討し、
施設面、職員体制などの見直しにつなげていく必要性を感じる。

ヒヤリハットの記入、報告をより強化していく必要がある。

（感染対策）

4月初めから中旬にかけ、胃腸炎症状の流行あり、0歳児1名入院。また、1月末からも嘔吐下痢症状の流行
が見られる。1月24日、松江市から食中毒注意報発令。

5月からはヘルパンギーナ、アデノウイルス、手足口病などの報告や症状のあるこどもが増え始めた。年度内
通し、少しずつ発生した。

10月頃より発熱、のどの痛み、咳などの症状が増えてきた。12月にインフルエンザが流行し、子ども、大人
含め65人の感染者がでた。また、同時にコロナウイルスも流行。家族の感染があっても子どもの感染報告はす
くなかった。大人の感染者が多く、1日に5人欠勤の時もあり、厳しい勤務体制となった。

年始で一旦流行が落ち着いたが、再度流行。1月から3月にかけて22名のインフルエンザ感染者があった。中
には今年度2回インフルエンザの診断を受けた人もある。

1歳女児、MRワクチン接種後に麻疹発症。感染拡大無し。

姉妹間での水痘感染2名。他児に感染拡大無し。

0歳児女児、家族のヘルペス感染より水痘感染。他児に感染拡大無し。

コロナウイルスの感染拡対策が社会的に弱くなり、インフルエンザや様々なウイルスの同時流行がみられた。
保育現場でできる限りの対策をしていきたい。

（保健行事）

内科検診 5月15日、11月14日 歯科健診 5月8日、12日、22日 11月20日、24日、27日

看護師会 6月29日、11月29日、4月1日

歯科保健従事者研修リモート参加 11月30日

歯磨き指導を実施することができなかった。次年度で年長児、5歳児クラスに対しての歯磨き指導を行えるよ
うにしていきたい。保育中の歯磨きが安全に効果的に行えるようにしていきたいと思う。

内科検診、歯科健診について、けんこうのきろくの活用をさらにクラス単位で進めていき、子どもの健康状態
の把握に努め、保育計画に活かすことができるようにしていきたい。

看護師会の参加については他園の保健活動を知ることができ、情報交換をできる場所となっている。引き続き
参加、活動していきたい。

令和5年度 年間総括<給食室>

◎年間目標について

旬の食材を味付けや切り方、見た目を変えて繰り返し使うことによって、最初は食べられなかった食材も食べられるようになった。また、散歩で採った野草や、畑で収穫した野菜を担当が工夫して調理することによって、食べ物を通して季節を感じる体験ができていた。合宿では給食と違う「特別」を意識したメニューを考案し、子どもたちのワクワクした笑顔を引き出すことができた。

◎献立について

旬の食材を使った季節感のある和食中心の献立を作成することができた。おやつは4番目の食事と捉え、おにぎり・団子・芋などを中心とすることができた。調理員が少ない日はおやつを外注（四葉園のパン）して対応した。また、良い給食を作るだけでなく、家庭での食事作りの参考になるような献立・おたよりの製作にも努めた。1月、2月、3月で年長ひとりひとりからのリクエストメニューを献立に取り入れることができた。子どもが自分のリクエストメニューを楽しみにしている気持ちを考慮し、リクエストしたメニューの園児が当日休みだった場合は翌月に同じメニューを取り入れた。前年度の献立表をベースに献立作成することで、考える時間や、ソフトに入力する時間を大幅に短縮させ、その分保護者支援（おたより、給食コラムなど）に時間を割くことができた。

◎調理について

年間を通してコロナやインフルエンザなどの病気が流行し、子どもの欠席が極端に多い時があったが、給食の発注を中断したり、メニューの変更をしたりして柔軟に対応することが出来た。天候や災害による食材の値段の高騰があったが、納入業者の方が食材の情報を親切に教えてくださったり、規格外に近いような食材（安価）を納品してくださったりしたので、給食費になるべく影響がでないようにした。合宿のまかない作りでは、コロナ前と同様に年長保護者も加わり、和気あいあいと作ることが出来た。例年保護者に片付けまでお願いしていたが、子どもと親の離れが悪いなどの理由から取りやめた。

◎アレルギーについて

誤食を未然に防ぐために、アレルギーを意識した献立（アレルゲンの使用頻度を減らす）をたてることができた。年明けは宗教食（豚除去）にも対応した。アレルギー児がみんなと同じものが食べられる安心感や、アレルギー児をもつ担当が安心して給食を食べさせる気持ちを考慮することができた。担当がいない土曜保育の時は、必ず代替食を作らなくてもいい献立をたて、事故がないように努めた。

◎保護者とのかかわり

コロナが5類になり、給食懇談会や保護者行事が再開。給食懇談会ではクラスごとに開催し、懇談会まで残れる方のみでの参加としたので、多くの保護者と意見交換することができた。時短料理レシピを年度末発行に向けて、レシピの提出を協力していただいた。集まった時短レシピは翌月に給食の献立にできるだけ取り入れ、新しい給食メニューとしてレパトリーを増やすことができた。

日々の子どものたちの様子を見て気づいたことや、保護者さんに知ってほしいこと、要求したいことなどを、一言メッセージとして週2ペースで玄関に掲示することができた。直接関わる機会が少ないからこそ丁寧に、分かりやすく、無理のない範囲で要求、アドバイスなど心に響く内容を書くように心がけた。

令和5年度 苦情受付(こぼと保育園)

番号	受付年月日	相談者	苦情・要望内容	解決状況
1	5月23日	利用者家族母親 (1歳児うさぎ組)	2日続けて、クラスの友だちに子どもが噛まれた。噛んだ子にも理由があると思うが、我が子が噛まれるのはつらい。噛んだ子も含め、様子を見ていてもらいたい。 (連絡ノートに記載)	記載のあった次の日、直接お詫びをして、噛まれた時の状況について再度話をした。また、噛まれやすい状況(室内遊び、一か所に子どもが集まっている時など)の際には、保育士が噛みつきのある子の側につき、気を付けて見ていくようにする。
2	6月28日	利用者家族母親 (1歳児うさぎ組)	①夕方迎えに行くと、クラスの友だちは園庭で遊んでいたが、我が子が一人で部屋の中にいた。他の子も一緒に部屋に入るとか、他のクラス担任と一緒に見てもらう等はできなかったのか？ ②病み上がりで久しぶりに登園した際に、水遊びをしたと言われた。体調面に気を付けて保育をしてほしい。	園長、担任、保護者とで話し合いの場を設ける。 ①園庭で遊ぶ際には、部屋に鍵をかけ、子どもが入らないようにする。また、適宜子どもの所在確認をし、室内に入っていきそうな子がいた場合は、担任がつくようにしていく。 ②前日やその日の子どもたちの体調を見ながら、保育を行っていくよう職員間で確認しよう。
3	7月12日	利用者家族母親 (2歳児こじか組)	担任に、子どものシーツが見当たらないと言われたが、持ち帰った記憶がなく家にもない。担任からは持って帰っていると決めつけるような言葉を言われたが、園にあるはずなので探してほしい。 (連絡ノートに記載あり)	次の日、シーツが見当たらない事と担任の言葉がけについて直接お詫びをした。シーツについては、該当クラスだけでなく、他クラスや園内を探すことを伝えた。今後も見当たらない物があった場合は、貼紙等行い、対応していくように職員間で話をした。
4	1月22日	利用者家族母親 (5歳児ほし組)	友だちとけんかをし、顔を引っ掻かれたと担任から伝えられたが、傷が思っていたより深くて驚いた。ケンカは仕方がないが、爪を短く切るなどの指導は園でしてもらいたい。 (連絡ノートに記載)	顔に傷ができたことをお詫びし、クラスの子どもたちには、言葉で伝えることの大切さについて話をした。また、衛生面と安全面の観点から、爪の手入れについても子どもたちや保護者に伝えていった。

令和 5 年度 苦情受け付け（児童クラブ）

番号	受付年月日 氏名	相談者	苦情 要望内容	指導員と話しあった内容
1	令和 6 年 3 月 8 日	3 年生 女儿 ÝT の母 対応 村上	2 月末で女儿 ÝT が児童クラブを退所した。夏休み頃までに退所した子どもたちの時はお別れ会があったが、今回、お別れ会がなくて女儿 ÝT がとても悲しんでいた。何でお別れ会がなかったのかと話をされた。お別れ会をして欲しい。	秋以降に退所した子たちは、ずっと児童クラブを利用していない日が続いた。そのため利用しないから辞めるという流れで退所された。そのためお別れ会をしていなかった。 女儿 ÝT は、ずっと来ていなかったが、辞める日は、突然児童クラブを利用された。 3 月末に秋以降に退所した子ども達に声をかけて、合同のお別れ会を開催することにした。

- ・前年度の指導員から、「自分のところに保護者が苦情を言いにくる」と言われていたが、直接苦情を言いに来られたのは 1 件だった。
- ・今年度は保護者会と話しをしながら、児童クラブの行事を決めるようにしていった。

放課後等デイサービスぽっぽ

2023年度事業報告

2023年度 放課後等デイサービス ぽっぽ事業報告

〈放課後等デイサービス ぽっぽ・おりーぶ ぽっぽ・ぴーす ぽっぽ・のあ〉

【運営について】

2023年度は3つの事業所が定員を満たしてのスタートを切る1年目であったが、年度を終わってみると3事業所の年間の平均稼働率は約92%と、全国平均83.9%（2022 WAM 調査）をはるかに上回る結果であった。たくさんの利用者が継続的に利用してくれているということであり、また年度途中からも利用できないかとの問い合わせが相談員から多数あり、年間を通じて新規利用者も増えてきている。

利用児・保護者のニーズに合わせた療育が全職員共有してできるように職員会やカンファレンス等を行っているが、今年度はより一層職員の「安全・安心な療育を提供する」という意識を高め、そのための一体感、向上心も高めたいという理由で、毎日の職員朝礼を行うことにした。このことにより、3つの事業所のそれぞれの動きを理解したり、利用児・保護者の状態の把握を全体で確認したりすることができ、また送迎等でのトラブル回避につながり、より連携した総合的な支援ができるようになった。

主任を配置することで職員の業務分担も明確化され、勤怠管理等職員の業務の件、また利用登録人数の把握など、管理者と共に組織的に行えるようになっていく。

今年度も保護者研修会、保護者と職員の昼食会を開催することで、保護者の悩みに寄り添い横のつながりを深める場を提供できたのも好評であった。今後も真摯に誠実に本人支援・家庭支援に努め、安心して子どもの療育を任せられる事業所として精進していきたい。

【経営面について】

今年度は3事業所とも「児童指導員等加配加算」を取得することができたことに加え、前述した稼働率にあるように安定した利用があったので、予算通りの収入を得ることができた。「個別サポート加算Ⅰ」「個別サポート加算Ⅱ」等、特に支援を要する子どもの受け入れも行っており、その部分も収入安定につながっている。ただ、平均の稼働率が高いが時期的な変動は大きく、特にインフルエンザ等が流行る冬季には欠席者が増え、どの事業所も稼働率が下がってしまうので、今後も登録人数の確保とそれに対応できる職員数の確保に努めていきたい。

支出については、大きなものはなかったが、原油高騰によるガソリン代の値上がりは今後も大きく響いてくると思われる。車輛維持、運行費については必要経費なので仕方ない面もあるが、支出面を減らしていくために、光熱費、事務経費等の無駄を省く意識を高めていきたい。

令和5年度 児童発達支援管理責任者自己評価・総括

放課後等デイサービスぽっぽ・おりーぶ

児童発達支援管理責任者 坂本香織

□年間目標

- ・活動の中で人と関わる楽しさを味わう。
- ・様々な活動・体験を通して、満足感や達成感を味わい、興味を広げたり自信をもつことができる。
- ・生活や遊びの中でのマナーやルールがあることを意識しながら過ごすことができる。

□本年度の自己評価

児童発達支援管理責任者の役割について	・相談員や学校、サポートノートを活用した医療との連携を積極的に行った。 ・ユニット会議、カンファレンスを定期的に行き、子どもの実態や課題を見極め、職員の意見を組み込んだ個別支援計画を作成した。 ・保護者の方が話しやすい、相談しやすい雰囲気やタイミングを作るよう努めた。 ・子どもや保護者との関わり方、勤務体制や職場環境などにおいて、職員が悩みを相談しやすい雰囲気づくりに努めた。また特定の職員に負担が偏らないよう、業務の分担を行った。
活動内容 療育内容について	・広い支援室、園庭を活用し、1年を通して体をしっかり動かす活動を取り入れた。 ・季節の行事やイベント等を取り入れ、子どもも職員も意欲的に活動できるよう工夫した。 ・利用児の実態やその日の状態により活動内容の設定を臨機応変に設定した。 ・長期休みには海水浴や川遊び、公共の乗り物の利用や買い物など、家庭ではなかなかできない体験活動を実施した。 ・カンファレンスや日々のうち合わせで子どもの実態や課題を話し合い、高すぎる目標の設定や過剰の支援にならないよう、職員間で共通認識をもって療育に入れるようにした。 ・おりーぶの利用児がのあの利用児に対して、なりたい姿、目指す姿として意識づけられるよう、のあの活動を意識した活動を取り入れた。
安全管理について	・活動中の危機管理としてヒヤリハット報告書を用いて、職員全体で危機意識をもてるようにした。 ・施設・設備等の点検を定期的に行い、利用者が過ごす環境の安全管理に努めた。 ・定期的に避難訓練を行い、職員、利用者の防災意識を高めていった。 ・外階段、玄関付近は天候によっては滑りやすい状態になるので、貼りだしや声をかけて注意喚起した。

□総合評価

- ・年間目標、各個別支援計画に基づいて活動・療育を行うことができた。
- ・利用者ひとりひとりの状況や発達段階に応じた療育を行っている。適宜保護者の思いや困り感、ニーズについて把握し、所内相談を行ったり関係機関と連携して専門的にサポートできるよう努力した。

令和5年度 児童発達支援管理責任者自己評価・総括

放課後等デイサービスぽっぽ・ピーす
児童発達支援管理責任者 別所真祐子

□年間目標

・ 大好きな友だちやスタッフと一緒に色々な遊びを楽しむ中で、好きな遊びの幅が広がる。 ・ 色々な経験・体験を通して、気持ちを受け止めてもらったり、達成感を味わったりする中で「自信」となり、色々なことに挑戦しようとする力がつく。 ・ 遊びや活動を通して、太陽・水・土など自然と触れ合い、心身の発達を促していく。
--

□本年度の自己評価

児童発達支援管理責任者の役割について	・ 医療や学校との連携を積極的に行った。医療とは、Dr.発信のサポートノートを通じて利用児童の普段の姿を共有した。利用する児童一人ひとりのために、医療・教育・福祉の繋がった支援ができたと思う。 ・ 相談員とは長い付き合いになってきており、ご家庭の状況や本児の様子など、密に相談し合える関係になってきているように感じる。 ・ 職員間でも積極的にコミュニケーションをとり、相談し合える関係性を築いていけるよう努めた。支援に悩んだ時にはケース会議を開いたが、もっと回数を増やし、より良い支援のためにもお互いが良い刺激をし合えるといいなと思う。
活動内容 療育内容について	・ 天気の良い日には、庭や公園でしっかり身体を動かして遊ぶことができた。疲れ具合によっては、砂や水に触れるなどして癒されている姿も見られた。ぽっぽの環境ならではのこたどと感じた。子どものその日の心の状態を考慮し、関わりかけたり、時には過剰な刺激を与えないようにしたりと、職員間で連携し、子どもが気持ちよく、安心できる居場所となるように心がけた。 ・ 知的学級の子が多く、成長するにあたり、人より「できない」と感じている子が多い。普段から何気ない生活の中でも「仲良くできたね」「楽しいね」「できたね！」と子ども一人ひとりを認める声かけを心掛けた。今後も自己肯定感を高めることができるよう、支援していきたい。 ・ 週5で安定的に利用する子どもが多く、子ども・保護者ともに親戚のような話しやすい存在になり、相談も受けやすい関係性ができているように感じる。距離が短すぎないよう、距離も保ちながら、良い関係性で子どもたちへの支援がより良いものとなるよう、今一度気を引き締めていきたい。
安全管理について	・ 活動の中や個人情報管理の危機管理としてヒヤリハット報告書を用いて、職員会で共有。施設・設備等の点検は、チェックリストを作成し、活用していきたい。 ・ てんかんのある子が入所した。今年度発作はなかったが、てんかん時の対応について再確認していく。

令和5年度 児童発達支援管理責任者自己評価・総括

放課後等デイサービスぽっぽ・のあ
児童発達支援管理責任者 増田紀子

- ・活動の中で人と関わる楽しさや受け入れられている安心感を味わい、社会で生きていくために必要な愛着や信頼の感情を育む。
- ・「豊かに生きる」未来を見通した、生活支援、余暇支援、進路選択支援を行う。
- ・体験的な活動を通して成功体験や達成感を積み、自己肯定感を養う。

□年間目標

□本年度の自己評価

児童発達支援管理責任者の役割について	・療育内容を他の職員と連携しながら検討し、子どもたちが自主的に生活できるよう見通しのもとせ方や活動環境の調整を行った。またひとりひとりの発達課題や保護者のニーズを捉えたうえで、カンファレンスや日々のミーティングの中で職員の意見をくみ取りながら個別支援計画の作成を行った。 ・日々の業務の中で職員の思いや困り感を把握し、利用児の対応のサポートを行ったり、役割分担の配慮を行った。
活動内容 療育内容について	・利用児の実態に合わせた活動内容を検討し教材や活動の設定を行った。また季節感の感じられるイベント等を取り入れ、職員と子どもたちが共に意欲的に取り組めるよう工夫した。 ・子どもたち自らが企画したイベントを実施し、達成感や充実感を味わう体験ができた。 ・長期休業中には、海や山など自然に触れ合う機会を作り、また外食や買い物社会体験活動を多く取り入れて、家庭ではなかなかできない体験を計画して実施した。 ・個別の療育については、適宜カンファレンスを行い、子どもの発達段階や実態について共通理解をし、個別支援計画を基に療育を行った。
安全管理について	・活動中の危機管理としてヒヤリハット報告書を用いて、職員全体で危機意識をもてるようにした。 ・施設・設備等の点検を定期的に行い、利用者が過ごす環境の安全管理に努めた。 ・定期的に避難訓練を行い、職員、利用者の防災意識を高めていった。

□総合評価

- ・年間目標、各個別支援計画に基づいて活動・療育を行うことができた。
- ・利用者ひとりひとりの状況や発達段階に応じた療育を行っている。適宜保護者の思いや困り感、ニーズについて把握し、所内相談を行ったり関係機関と連携して専門的にサポートできるよう努力した。
- ・保護者ランチ会を開催。保護者通しのつながりを広げ、気軽に悩みを相談できたり、子育てについての有益な情報を共有したりするいい場となった。保護者からも「とてもよかった」「またぜひこのような機会が欲しい」との感想をもらった。

□保護者アンケート結果

- ・活動や療育の内容については、全般的に理解を得られている。相談できる時間が少ないとのご意見もあり、

迎えの時間は療育にあたっていることが多いため、午前中の時間などを利用して、保護者さんとの面談の時間を設けることに努めていく。

- ・療育環境についても、概ね好意的な評価をいただいている。
- ・バリアフリー環境に関しては、マイナスなご意見が多かった（建物の構造上難しいが）。

□今後の課題

- ・松江市障がい者基幹相談支援センター、相談員、学校、医療関係からも信頼を得て、利用児が年間を通して順調に増え、来年度春からは定員いっぱいのスタートである。空きを待つ方もある。利用調節、療育パート職員の人員確保に努め、利用を希望される方の期待に応えていきたい。
- ・利用人数が増え、活動環境を調整が必要。児童の実態に応じて構造化を図り、どの子も伸び伸びと過ごせるようにしていきたい。

【保護者支援】

保護者を取り巻く環境も様々で、自身の悩みや問題を抱えている方たちも多くなり、お迎えの時には出来るだけ利用者児の様子を直接お話しする中で、保護者の話を傾聴する時間を設けている。保護者面談は、必要があれば支援計画の説明とは別個に時間を取って対応し、緊急を要する件についても迅速に相談員や学校、医療とも連携を取った。

今年度は10月に保護者研修会を、6月と2月にランチ会を開催し好評であった。次年度にも結び付けたい。

【職員体制】

事務分掌表、業務分担表の中で仕事の明確化をしていった。職員会や利用者のカンファレンスを午前中に行うが、その内容については午後からの半日パートの職員には文章の回覧及び各ユニット会を行い、療育について共通の認識をもってあたるようにした。

所内研修を適宜行い、「ぽっぽの療育」について皆が理解し職員全体が同じ方向を見て療育ができるようにした。所外研修についても（リモート研修含む）資格習得等のための研修に職員全員ができるだけ参加するようにした。

【関係機関・団体や保護者との連携】

1. 相談支援事業者との連携

・利用児の担当相談員に、月に一回利用状況や利用時の様子について報告すると共に、モニタリングを通じて連携を取ることができた。事業所の活動の様子や支援、療育の実際を知ってもらうことで、信頼を得ることができ新規利用者の紹介へと繋がった。

2. 学校との連携

・利用児の様子に変化があった際など、送迎時に顔を合わせて、また電話のやり取り等で情報共有を行っている。また必要に応じて支援会議を開催し、今後の本人支援、家庭支援の在り方について共通認識をもつことができた。

・年度初めに、各在籍学校に挨拶文と利用児の名簿をもって挨拶に出かけるようにした。ぽっぽの様子や責任者、場所等をお伝えすることで信頼につながっているのではと感じている。下校時間、また時程の変

更など、学校から細やかにFAXをいただいている。

3. 医療機関や専門機関との連携

・利用児の状況によって医療機関との連携も必要となり、保護者や学校の担任と共に医療同行をすることも多かった。必要に応じてサポートブックを作り、医療機関・学校・家庭・ぽっぽでの利用児の情報共有をすることもできた。

4. 保育所・児童発達支援事業所等との連携

・新1年生の新規利用に際しては、移行支援会議を通じて、利用前の児童についての発達段階や家庭環境等の情報を予め知ることができ、4月当初からの療育に生かすことができた。

5. 他の放課後等デイサービス事業所等との連携

・併用している児童についての情報共有を行うことができた。来年度は共同でのケース会を開催したいと考えている。

6. 放課後児童クラブや自治会等との連携

・ぽっぽ舎横の公園と旧園舎の庭を共同で使用することで、こばと学童の児童と日々交流することができた。障がいの有無や学年、男女関係なく、一緒にサッカーや鬼ごっこ、焚き火等を楽しむ時間が継続して在ることには大きな意義を感じている。

・近くに散歩に出たり、畑での活動をしたりする中で町内の方たちと挨拶を交わし、少しずつを関わりをもつようにしていった。今後は、近隣の方を「のあショップ」などへご招待することを目標としている。

7. 保護者との連携

・保護者との連絡用LINEを開設し、活動に必要なものの連絡や計画のご案内など、オンラインで保護者とのやり取りができるようにした。文書よりも迅速に伝わるので好評である。

【情報提供、公表、相談、苦情解決】

・各事業所からのお便りで定期的に（月に1回程度）活動の様子を保護者にお伝えした。また各月で「ぽっぽ通信」を発行し、全体での取り組みや保護者研修会等の様子をお伝えした。

・各事業所で活動写真を廊下や入口掲示し、迎えの際に気軽に様子がわかるよう工夫した。

・半期に1度、各家庭に個人の写真データをお渡ししている。

・ガイドラインに基づく保護者評価・事業所評価を実施。文書で保護者に配布すると共にホームページに掲載している。

・障がい福祉サービス等情報システムにて公表。

【緊急時対応、非常災害・防犯対策】

・利用児、関係機関等掲載の緊急連絡表を作成している。

・消防計画を周知するとともに年2回（火災・地震）の避難訓練をこばと小規模保育園と合同で行い消防署に報告をした。

・BCP（業務継続計画）作成。感染症まん延時、また非常災害時においても継続的にサービスが提供できるよう備えている。

【虐待防止・身体拘束の取組】

- ・虐待防止研修会を適宜開催。また、管理者と各事業所の児発管で虐待防止委員会を開催し、事業所での虐待防止に努めている。
- ・身体拘束の禁止も研修の中で職員に通達。虐待も含め、「風通しの良い職場」「助け合える職場」「職員全員で子どもたちを育てる場」という風土づくりを徹底してきている。

【衛生・健康管理】

- ・おやつやクッキングの前の手洗い、テーブルや調理器具の消毒など衛生環境に配慮している。
- ・特にインフルエンザやコロナウイルスの流行期には学校や家庭との連絡を密にとり、利用児の健康に注意を払った。

【安全確保】

- ・サービス提供中に起きる事故や怪我を防止するために、室内及び屋外の環境の安全性について毎日点検し、鍵の二重ロックなど危険を排除するように努めていった。障がいの特性から危険な行動をとる利用児も多いので、該当児には特に注意を払って見るようにした。
- ・公用車ではチャイルドロックをするなどの注意をし、事故が起こらないよう安全運転に努力した。また、置き去り防止安全装置を 3 列シート以上の車両に配備し、車内への置き去りがないように配慮している。
- ・乳製品除去やカロリー制限をする利用児がいるので、おやつ等の成分表には気を付けて見るようにし、保護者と連携を密にし提供食の確認するなどの対応をした。
- ・職員会でヒヤリハット・事故報告等の時間をもち、内容について共有し再発防止に努めた。

2023 年度 ヒヤリハット・気づき報告

月・日	時間	内容	原因・対策
4 月 13 日	17:40	ファイルの中に、他利用児の報告書が入っていた。	ダブルチェックの徹底を図る。
4 月 17 日	15:15	おりーぶの指導室の柱を上り飛び降りた際、他の児童と接触。本児が顔を打ち前歯が欠けた。	危険な遊びが見られた際は、おやつ の時間等皆を集めて指導する。
4 月 26 日	16:00	園庭で鬼ごっこをしていた児童が石を投げ、職員の眼鏡にあたる。	友だちとの関わりでいやなことがあ ったとのこと。本児に注意し今後も 遊びの中での見守りをしていく。
4 月 27 日	16:20	施設横の公園の遊具を修理に来ていた業 者の軽トラックに、利用児が石を投げた。	突発的なことをする児童だったが、 意思を持っていたことに気づかなか った。保護者にも伝え、いけないこと だと指導をした。業者さんのほうに はお詫びの電話をした。
5 月 19 日	14:50	公用車で大庭小の児童を迎えに行った 際、その児童が振り上げた傘が他事業所 の車に当たった。	故意ではなかったが、児童の持ち物 や扱い方について気を配って見守 る。隣に車が止まっているときの乗 降には注意を払う。
5 月 26 日	16:00	中央小児童の迎えの時間を勘違いし、15 分待たせてしまった。	送迎ボードを確認することはもちろ ん、写真を撮る、アラームをかけるな どの手立てをする。
5 月 29 日	16:15	玄関で小規模保の園児と遊んでいた児童 が、オートロックの鍵を開け、園児を外に 出してしまった。	共有玄関にいた本児から目を離して しまった。職員しか触らないという 指導をするが鍵のボタンにもカバー をかける等対処が必要。
6 月 20 日	17:10	畑で遊んでいた児童が、他児とのトラブ ルで怒り野菜の立て札を投げたところ隣 の畑に入ってしまった。	本児に注意したうえで、畑の持ち主 と一緒にお詫びに行った。トラブル があった際にはそばを離れず見守 る。
6 月 22 日	17:40	利用児のファイルを渡し間違えてしまっ た。	迎えの保護者が重なる際には間違え やすいので、しっかり確認をする。
7 月 11 日	15:10	迎えの車中で、同じ学校の男子二人がト ラブルになり、一人が水筒で相手の頭を たたく。	もともと仲が悪く、特に最近 T 児 は調子が悪かった。当面二人体制で 迎えに行き、T 児の隣に職員が座るよ うにする。
7 月 13 日	15:30	乃木小学校の迎えを忘れていた。	送迎ボードの確認を怠らないよう気 をつける。

7月13日	15:15	古志原小学校迎えの際、セレナに全員乗車させシートベルトを確認し発車したところ、スライドドアが開いてしまった。ドア近くの児童が泣き出したが、まだ走り出していなかったため、大事にはならなかった。	出発時のスライドドアのロックの確認が不十分だった。セレナの右スライドドアのオートロックがかかりにくいので、十分に注意が必要。
8月9日	16:00	のあの0児が、お化け屋敷企画の際、妹が来ることがわかり、怖がらせようと休憩室のドアを激しくたたいた際、ドアのはめ込みガラスにひびが入った。	脅かす場所など事前に注意してあったが、想定外のところだった、また職員も企画の対応をしていたのでその場から目を離してしまった。次回はきちんと確認をする。
9月4日	17:00	テンション高く K 児がびーすの部屋を飛び出し、すぐに外からインターホンを鳴らした。おりーぶの玄関から出ていったよう。	他児とのトラブルで不穏になっていたが、本児は遊びのつもりで出てしまったらしい。時期的に不穏になりやすいので気をつけてみていく。
9月7日	15:05	R 児が迎えに来た職員の目を盗んで送迎車に乗り込み、車内からロックをする。また走行中にシートベルトを外す。	本児は遊びのつもり。なるべく二人体制で迎えに行く。道中シートベルトを外したら停車する。
9月13日	16:25	16:30 下校予定に合わせて迎えに行くが本児に道の途中で出会う。慌てて車に乗せる。	早めに昇降口に出た本児が不安になって歩きだしてしまったよう。必ず迎えに行くので、学校で待つこと、困ったら担任に伝えること等を約束させる。学校にも連絡し共有する。
10月4日	17:30	A 児に他利用児の実績記録表を渡してしまっていた。	ダブルチェックをしたがそれでもミスが起こってしまった。再度確認を徹底する。ファイルの中身を確実にするため、2つずつ用意し入れ替え制にする。
令和6年 2月2日	16:30	K 児が園庭の倉庫周辺で遊んでいる際、H 児に閉じ込められてしまい鍵をかけられた。	職員がついており一瞬の出来事だったが、両者とも見守りが必要な児童。職員全員で情報共有する。
2月9日	16:00	津田小迎えの車中、H 児の K 児に対する暴言が止まらず大声を出していた。	できる限り二人体制の送迎か、別便での送迎をする。
2月14日	15:00	S 児が学校で遊んでいる際に、歯の矯正器具がずれたとのこと。ぽっぽで確認すると金具が2, 3ミリ程度飛び出していた。	保護者に連絡し状態を伝え受診のお願いをした。その後の活動は怪我の可能性があるので静かに遊ぶよう指導した。

2023 年度苦情受付

番号	受付 年月日	相談者	苦情 要望内容	解決状況
1	R6 年 1 月 24 日	利用者 母	事業所アンケートを取った際、別紙 1 枚にわたって、これまで納得いかなかった対応やサービス提供の在り方についてご意見を書かれていた。	内容については、これまでも保護者と面談等でお伝えしていた内容だったが、療育の方針や対応の意図などがしっかりと伝わりきってないようなので、相談員さん、父も交えて再度お話がしたい、との旨お伝えする。 しかし、母は拒否。何度か面談日程の調節をするがどうしても参加できない、ということで、相談員、父、児発管、管理者で話をする。記入された苦情等の内容については、一つずつ丁寧にお答えした書面を付け、父に説明をし、納得していただく。
2	3 月 26 日	利用者 母	映画を見る活動だったが、朝来所がなく、お電話をすると「体調不良のため欠席する」とのこと。直前のキャンセルのため前売り券代をお願いしたところ、納得していただけなかったようで、LINE にて苦情。	直前になってのキャンセルについては、対応できるものとそうでないものがあるが、そのことを細やかには事前にお伝えしていなかった。今後の長期休業中の活動については、しっかりと説明していくこととお約束した。

こばと小規模保育園

2023年度事業報告



2023 年度こばと小規模保育園 事業報告

<保育園の情勢>

2023 年 6 月に政府が閣議決定した「こども未来戦略方針」では、75 年ぶりの配置基準改善として、1 才児（6：1→5：1）、4、5 才児（30：1→25：1）に改善することが盛り込まれた。

① 改善をいつ実施するか明示していない問題

方針に配置基準改善の内容は明記されたか実施時期は明示されていない。

② 実施施設が限定される加算対応という問題

国はすべての施設が守るべき「児童福祉施設の設備及び運営の基準」を改定するのではなく、設定した条件を達成した施設にだけ補助金を上乗せする「加算」という仕組みで対応することを明言した。

加算対応では、条件を達成して加算される施設とそうでない施設ができてしまう。すべての子どもに等しい条件で保育を保障する為にも、基準の改定が求められる。

③ 労働条件改善が求められる問題

基準を改善しても保育士が確保できないとの指摘がある。基準改善を実効あるものにし、各施設で増員が図れるようにするために、全産業の平均賃金を下回っている保育士の賃金を引き上げることをはじめとした労働条件の改善が必要である。

とにかく配置基準の改善を！の声が全国から上がっている。

- ・園児が減る時代が到来しつつある中だからこそ、職員基準を見直し子どもも保育者もゆとりのある園生活ができればと思う。
- ・職員が増えれば、保護者の対応に時間がかけられるようになる。不適切保育も減る。
- ・職員配置基準を見直して保育士を増やしてほしい
正規職員として雇用、非常勤職員、パート職員を基準より多く配置しているか人件費が 8 割となり財政状況はとても厳しくなる。
- ・職員が正規として安心して長く働けるように、余裕のある保育ができるようになる。
- ・昼休憩や研修、事務保障ができる。その余裕は保育の質を向上し子どもたちに返ってくる。
質の高い保育を保障するには、配置基準の大幅な改善が必要。

<こばと小規模保育園としての振り返り>

- ・0 才児 2 名、1 才児 6 名、2 才児 6 名の 14 名でのスタートとなる。例年、夏以降から 0 才児の入所があり秋には定員が満杯だったが、今年度は 1 月でやっと定員に達するという状況であった。
- ・コロナも 5 種扱いになった事から、初めての親子遠足も出来、親子運動会後に BBQ をして保護者同士のつながり、交流の場を持つ事が出来た。又、役員さんたちと一緒に行事等について意見も聞きながら一緒に進める事が出来た。
- ・放デイさんの夏まつりに呼んでもらったり、一緒にクッキングをしたりして、交流の場を持つことも出来た。
又、秋以降、こばと保育園の 2 才児クラスと小規模の 2 才児クラスとの交流も持つことが出来た。
- ・平田乳児保育園より実習に来られ、園の保育を伝え、職員も自分の保育を振り返る良い機会になった。
- ・保育の質の向上、職員が同じ姿勢、同じ方向性で日々保育をしていくという点からも園内研修に取り組む事が出来た。

2023年度事業報告

こばと小規模保育園

月	園内行事	保護者会行事	その他
4	入園のつどい		
5		保護者会総会 奉仕作業	歯科検診 内科検診 園内研修
6			園内研修
7	公開給食 給食懇談会		救急蘇生講習 レクリエーション 園内研修
8	七夕会		
9	おじいちゃん、おばあちゃん遊びに来てね	奉仕作業	
10	親子運動会	BBQ	秋まつり
11	芋煮会 親子遠足		歯科検診 指導訪問 内科検診
12	クリスマス会		
2	節分		松江市指導監査
3	修了式		

※保護者会役員会後、ちいぽっぱ役員会又は懇談会を行ない

役員会報告、行事について相談したり一緒に進めていった

※避難訓練・消火訓練 毎月1回

ちいぽっぱ、放デイさんとの合同避難訓練（8月、3月）

※誕生会、お弁当の日、身体測定 月1回

年間総括【ひよこ組】～0 歳児～

《年間目標》

- ◎眠る、食べる、遊ぶ のリズムが安定し機嫌よく生活する
- ◎保育士との信頼関係を大切にし、情緒の安定を図りながら意欲的に生活する

《生活》

- 食事・・・ミルクや離乳食（中期食、後期食）から始まり、3月には1人を除いて他の子は完了食になる。味もわかるようになり、皿を押したり、下に食べ物を落としたりして遊んでしまう子もいるが、全体的に自分の手でつかんでよく食べている子が多く、おかわりもしていた。
- 睡眠・・・最初から抱っこをせず、布団の中でトントンをするとすぐ眠れる。寝ると一定時間熟睡して眠れる。起きても泣いて起きてはこない。
- 排泄・・・尿が出る感覚がわかるようになり、股を押さえ「しっし」といって知らせてくる姿も見られるようになった。便もパンツの中でだが、しゃがんだりお尻を上げたりして便を出し、出る感覚がわかるようになる。
- 着脱・・・自分でパンツやTシャツを着ようとする姿が見られた。介助するのを嫌がり自分で着ようとする。まだ自分で着脱が出来ない子も介助すると足をパンツの穴にいれようとする。
- 清潔・・・手を洗いに行き、自分で石鹸の泡を付けて手を洗えるようになった。洗うとペーパータオルを自分で取ってゴミ箱に捨てに行くようになる。
- 健康・・・咳、鼻水、咳、発熱、手足口病、アデノウイルス、インフルエンザなどで休んだり、体調が悪くなる子が多かった。
- 安全・・・子どもがイラっとしてしまうときに手やかみつきがでることがあった。

《あそび》

- 散歩・・・天気の良い日は三角公園、運動公園、古志原公園、メロン公園、新園舎、近所などあちこちに散歩に出掛けた。歩行が出来る子は、歩いて散歩に行くようにした。散歩先でどんぐりや葉っぱなど季節の物を拾って楽しんだ。
- 園庭・・・外に出る事が好きで、靴を自分で履いて出ようとする。園庭でよく遊べた。しゃもじやお玉を持って保育士の真似をして鍋に砂を入れたり、砂ケーキを作るとそれを触って壊したりして楽しんでいた。築山から保育士が呼ぶと、自分で登ってきていた。水が大好きで水道の所で水を出して触れ、服がビショビショになりながらも水遊びを楽しんでいた。
- プール・・・水がかかっても平気でプールの中に入って遊んでいた。
- 仲間・・・友だちとの関わりも出てきて、友だちが持っているものが欲しくて取り合いになることがあり自我が出てくるようになった。小さい子の側に行つて触ったり、おもちゃを渡したりして、友だちが気になる様子が出てきた。
- 絵本・・・絵本はみんな大好きで、手遊びを始めると保育士の周りに集まり、絵本や手遊びの真似をして楽しく見ていた。

《認識》

- 理解・・・保育士が言った内容が分かり、行動に移せることが出来る。絵本や手遊びの真似をしたり、指差しをしたりする。
- 表現・・・「バイバイ」「あっち」や「しっこでた」など2語文が出る子がいる。「やだ」など自分の気持ちを伝えることが出来る。
- リズム・・・保育士や大きい子の模倣をして、リズムをして楽しむ。メダカやトンボなど手を伸ばしてやったり、あひるのリズムではしゃがんで前へ出たりする。ハイハイの子も一緒に出ていく。まだハイハイが出来ない子は畳の所からよく見ている。

《保護者支援》

- 保護者との信頼関係を大事にし、安心して預けてもらえるよう園での様子を連絡ノートや送迎時に伝えるようにした。
- 体調が悪い場合は、すぐに保護者に連絡をし、迎えに来てもらい受診をしてもらうように伝えた。
- 外国の方の保護者には、ひらがなで連絡ノートを書いたり、おたよりにルビをうったりして、丁寧に園の様子を伝えるようにした。

《評価・反省》

- 自分で出来ることは自分でさせるようにし、お片付けなど声をかけてさせるようにして、達成感、満足感を味わって意欲につなげるようにした。
- 3月には7人に増えたが、1人ひとりに話しかけて関わることを大事にし、笑顔で接することが出来て良かった。全体的に子どもたちは落ち着いていた。今年度はあまり散歩に行く機会が少なかったのもっと色々な所に出掛けて行くようにしたい。

年間総括【あひる組】～1歳児～

- 保育目標
- ・保育士や友達と一緒に水、砂、土に触れて遊ぶ
 - ・自分でしようとする気持ちを大切に育てる

〈生活〉

- ・食事：・食事中に落ち着いて食べる事が出来ず、椅子に座れない児がいたが職員間で話し合い保育士が配膳をするようにし、必ず一人保育士が子どもにつくようにすると落ち着いて食べれるようになった。
 - ・全体的によく食べるようになり完食しておかわりをするようになった。
- ・睡眠：・特定の保育士を求めたり、落ち着いて入眠できない児がいる。一年たってもそれは変わらず入眠に時間がかかる。
- ・着脱：・ほとんどの児が自分で着替えることができる。難しい所は保育士に手伝ってもらいながら着替える。
- ・排泄：・大体の児が尿や便の出たことに気づいて知らせることができていた。
 - ・今ではほとんどの児がトイレで出来るようになる。
- ・清潔：・手を洗いにいき、自分で石鹸の泡をつけて手を洗う。洗うとペーパータオルを取ってごみ箱に捨てに行く。

〈あそび〉

- ・散歩：・天気の良い日には三角公園、運動公園、古志原公園、新園舎、近所などに散歩に出かける。春は歩行が安定しない児もいたため散歩車に乗って出かけていたが、秋頃には全員が歩いて往復できるようになる。
- ・園庭：・砂場では、しゃもじやお玉を使いお椀や鍋に砂や水を入れておままごとを楽しんでいた。
- ・プール：水に抵抗のある児もいたが「ことりことり」などをしているうちに水が好きになりプールに入り喜んでいた。
- ・仲間：・同じクラスの友だちにも関心が高まり、名前を呼び合ったり、誘い合って遊んでいる。
- ・絵：・丸を閉じる児もいるが、集中できずまわりをきょろきょろ見ながら描く児もいる。

〈リズム〉

- ・保育士や他クラスの児を模倣して、楽しんで体を動かしている。
- ・4月当初は金魚やどんぐりを嫌がる児がいたが、大分抵抗なく出来るようになった。

〈保護者支援〉

- ・保護者との信頼関係を大事にし、安心して預けてもらえるよう、園での様子を連絡ノートや送迎時に伝えるようにする。

〈評価・反省〉

- ・出来ることは自分で出来るように心がけてはいたが、つい手を出してしまうことがあった。
- ・天気の良い日には散歩に出かけることが出来、子ども達も長距離が歩けるようになった。

年間総括【つばめ組】～2歳児～

年間目標

- ・一人一人が安心して園生活を送り、自分を出せるようにする。
- ・基本的な生活習慣の自立を目指し、周りの事を自分でしようとする。
- ・生活や遊びの中で友だちとの関わりを持てるようにする。

〈生活〉

- ・食事：・ご飯や汁が食べにくい児の姿も見られたが、給食の食べる順番を替えたり、量を調節したりすることで少しずつ食べられるようになり完食出来るようになり、おかわりもする。
- ・スプーンを使って食べようとする児もいたが、スプーンを使わずに食べる児の姿も見られる。
- ・睡眠：・眠りにつくまで時間のかかる児や保育者が側にいないと眠りにつけない児の姿があった。
- ・午睡から目覚めるのに時間がかかる児がいたが、早めに起こすようにし、生活リズムを作るようにすると自分から起きられるようになる。
- ・排泄：・ほとんどの児がトイレで排泄することが出来、排便をした時は「ウンチが出た」と伝えようとする姿がある。
- ・着脱：・ほとんどの児が自分のカゴから衣服を取り出して着替えることが出来るが、一対一で児につかないと着替えるのに時間が掛かる時もある。
- ・清潔：・食事前や、手が汚れた時に自分で手を洗いに行く姿があった。

〈あそび〉

- ・泥んこや手が汚れるのを嫌がる児の姿がある。園庭に裸足で出るのは抵抗がなく遊んでいた。
- ・虫探しやおままごと、追いかけてっこなどをして楽しむ姿が見られる。
- ・友だち同士の関わりも多くみられるようになり、会話を楽しみながら一緒に遊ぶ姿が見られる。友だちとのトラブルがある時は気が付いた児が仲介に入ったり、保育者に伝えたりする姿がある。
- ・散歩では、長い距離も歩けるようになるが、帰る頃になると足取りがゆっくりで歩くのに時間が掛かる児の姿がある。自然物に興味があり、手に採り持ち帰る姿も見られる。かくれんぼをしたり、安全な道でかけっこをしたりして散歩を楽しむ。
- ・クッキングに興味を持っていて、エプロンを付けて楽しむ姿がみられる。クッキングの途中、食べてしまう児もいたが、後半になると最後まで食べずにクッキングをする姿が見られる。
- ・毎日旧園舎の大きいプールに入り、ワニ泳ぎやことりことりなどを楽しんでする。後半になるとイルカジャンプや顔付けなどダイナミックに遊ぶ児の姿が見られる。

〈認識〉

- ・保育者が話したことを聞き、行動に移すことが出来る。
- ・自分の思いを身体で表現し、言葉で伝えようとする。

〈リズム〉

- ・リズムでは身体をよく動かして楽しみながらする。
- ・リズム中に要求をすると、話を聞き行動に移す姿が見られる。
- ・全体的に歌もよく覚え、大きな声で歌っていた。

〈保護者支援〉

- ・送迎時に一人一人の園での様子を見たり、家庭での様子を聞いたり、連絡ノートで伝えるようにする。

- ・一人一人の毎日の体調を観察し保護者の方から聞いたりして、健康に過ごすことが出来るようにする。

〈評価・反省〉

- ・一人一人の児の様子を見て関わるようにし、要求をするようにした。また、毎日プールを繰り返ししたこと自分から友だちに話しかけたり、身体をよく動かして遊んだりと自分を出そうとする姿がみられた。
- ・絵を描くことが少なかったなので、今後絵を描く機会を作っていきたい。